

日本地誌要畧

大槻修二編

二

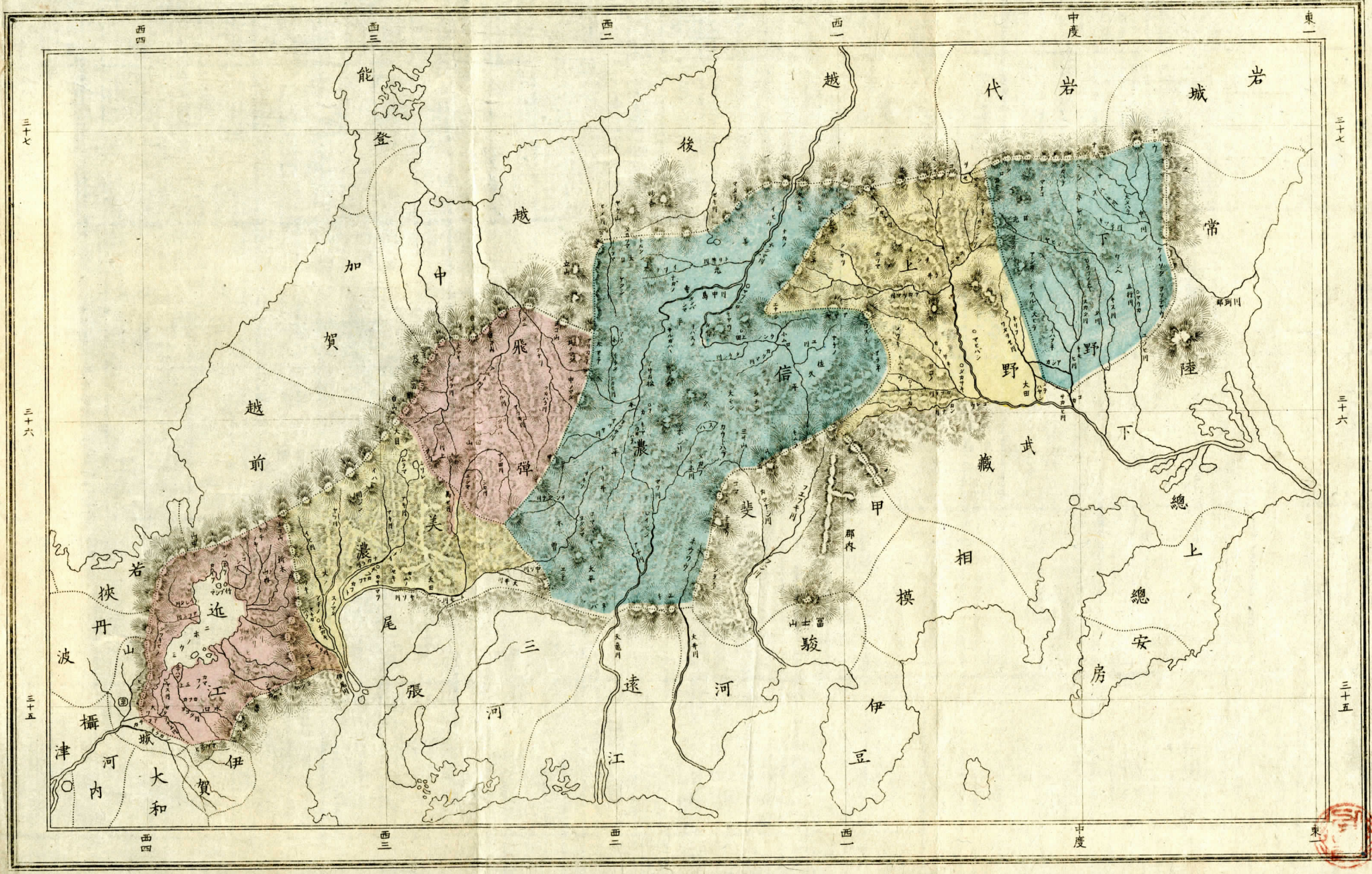
本主
田中瀑太郎

T1A1

28

I 76

中山道全圖



三十七

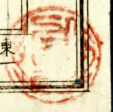
三十六

三十五

三十七

三十六

三十五



東山道

東山道ハ、近江美濃、飛驒、信濃、上野、下野、岩代、磐城、
陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後ノ十三國ノリ、近江以下
ノ六國ハ、東海、北陸、兩道ノ間ニ夾リ、東ニ亘ル百
五十里、是ノ中山道ト稱ス、北境ハ、連岳一帯相列
ル、即、全國ノ脊梁ナル大山脈ニシテ、其南ヲ限ル
山脈ハ、信濃ノ東端ヨリ西ニ連リ、海、山、兩道ノ中
間ヲ亘リ、美濃、尾張ノ間ニ至リテ盡ク、近江ハ畿
内、及、山陰道ニ接シ、四圍皆山ナリ、中ニ一大湖ヲ
湛ス、琵琶湖是ナリ、美濃ハ南ニ亘リテ、地勢甚平

ナリ、飛驒信濃ハ山脈ノ間ニアリ、上野下野ハ關
東ニ屬シテ、八州ノ平野ニ連リタリ、其岩代以下
ハ、地勢折レテ北ニ赴ク、亦百五十里、東西ニ海ヲ
受ケ、北端ハ、北海道ト相對ス、即陸奥出羽ノ舊地
ニシテ、地勢風土、自一道ヲナス、故ニ今、全道ヲ以
テ、中山奥羽ノ西部ニ分ツ、

近江ハ十二郡、滋賀、栗木、甲賀、野洲、蒲生、神崎、愛
智、犬上、阪田、淺井、伊香、高島ナリ、

古ハ淡海ト云フ、國ノ中央ニ一大湖水アリ、故ニ
名ク、其後、遠江ト相對シテ、今ノ字ヲ用キタレド、

尚、其稱呼ヲ改メズ、○湖水ハ、南北、二十里計、周回
ハ七十三里ナリ、其幅ハ、東北、頗廣大ニシテ、十餘
里ニ及ベル、西南ニ至リテハ、堅田、今濱ノ間ヨリ、
兩岸漸狹リテ、其間二三里ニ過キズ、鴻海ト云ヒ、
又形ヲ以テ琵琶湖トモ呼ブ、日本第一ノ大湖ニ
シテ、富士山ト並稱シテ、我國ノ雙美トナス、風光
ノ美麗ナルヲハ、比良暮雪、栗津晴嵐等、謂ユルハ
景ノ稱アリ、湖面ハ殊ニ平ニシテ、鏡ヲ開クカ如
ク、沖島、竹島ノ二小島、其中心ニアリ、沖島稍大ナ
リ、而テ竹生島ハ、湖ノ北隅ニ峙チ、岸ヲ距ルヲ僅

ニ半里計、其周四モ亦相若ク、金山、岩石ニシテ四面共ニ絶壁ナリ、岩下ニ洞門アリ、其他ハ屏風、材木ノ諸岩アリ、山上ニ觀音堂ヲ設ク、故ニ詣スル者常ニ多シ、是ヲ湖中奇絶ノ處トナス、湖水南ニ流レ、大津、粟津ヲ過ギ、逼リテ川トナル、是ヲ勢田川ト云フ、大小二橋アリ、其長一百廿間、此橋ハ京畿ヨリ東方ヲ扼スル要口ニシテ、古來、争亂ノ日、攻守相挑ミテ、屢是ヲ燒キ落ス、遠クハ壬申ノ亂ヨリ、沼承、承久ノ役、元弘、應仁ノ戰、皆然ラザルハナシ、然レモ守者多ク敗ル、惟、押勝ノ叛ニ、走路ヲ斷

チテ、其功ヲ奏セルノミ、○川流ハ南ニ下リ、石山ヲ過ギテ西ニ轉レ、四里ニシテ山城ニ入ル、宇治川、是ナリ、國境ハ、兩岸高ク逼リ、岩石河中ニ並峙チ、鹿飛、米炊等ノ險アリ、大津ハ國ノ都會ニシテ、東海、東山ノ官道ニ當リ、西京ヲ距ル僅ニ三里、中間ニ逢坂山アリ、古ハ京畿ノ關ヲ置ケリ、關東ノ稱ノ由テ起ル所ナリ、西ハ志賀山、長等山等、相連リテ、比叡山ニ接ス、其麓ニ三井寺、日吉社等ノ古寺大社アリ、街市ハ膳所ノ城市ト相連リテ、湖水ノ西南ノ隅ニ臨ミ、北岸

ナル海津鹽津ト、通船常ニ湖上ヲ往来シ、近年ハ、
蒸氣船ヲ用キ、北國ノ運輸大ニ其便利ヲ得タル
而テ西國ノ通路ハ、伏見ハ直道四里ニシテ淀川
ノ船運アリ。○抑此國ハ畿内ニ接近セル故ニ、帝
都ヲ建テ給フヲアリ成務帝ハ志賀ニ都シ、天智
弘文ノ三世ハ、大津宮ニ居給ヒ、其後孝謙帝ノ時
ニ、紫香樂宮ヲ造リ給フ、凡畿外ニテ定リタル都
趾ヲ存スル者、此國アルノミ。
國ノ四境ハ、悉連山繞リ圍ミ、内地ハ湖水ヲ以テ、
東近江、西近江ノ稱呼ヲ建ク、西地稍狹ク、比良、朽

木ノ諸山ハ、比叡山ノ北ニ連リ、山城、丹波、若狹ニ
接ス、湖ノ岸ニハ、大溝、今津ノ諸邑アリ。○東地、頗
廣シ、南ニ三上山、鏡山アリ、北ニ佐和山、磨針嶺ア
リ、中間ハ蒲生野、沖野等アリ、佐々木氏世々此地
ヲ領シ、城ヲ觀音寺ニ構ヘシガ、後織田氏ニ滅サ
ル、信長、更ニ安土ニ築キ、湖水ニ臨ミテ、城壁ヲ設
ク、其製造最堅固ニシテ、天主閣ノ制ハ、實ニ此城
ヲ以テ始トス、彦根ハ繁盛ナル城市ニシテ、佐和
山ノ南ニアリ、其西濱ヨリ湖ニ沿ヒテ、北五里ヲ
長濱トナス、羽柴氏ノ嘗テ城ヲ設ケシ處ニシテ、

地誌要略 卷之二

市ノ繁榮、運輸ノ盛ナルヲ、大津ニ次クト云ハ、此邊ヨリ東北ニ亘リテ、湖北ノ稱アリ、淺井氏ノ所領ニシテ、其城趾ヲ小谷山ト云フ、伊吹山ハ、美濃ニ跨ル大山ニシテ、高ク東境ニ列リ、群岳ノ上ニ出ツ、蓋此山ハ、北境ニ亘ル大山脈ヨリ、南ニ分レテ、別ニ一ノ山脈ヲ起ス者ニシテ、靈山其脈ヲ受ケテ、本中北ノ三峯相聳ニ、三國岳、釋迦岳、高畑山等ノ連山其南ニ並列リテ、伊勢ノ藤原鎌鈴鹿ノ諸山ト腹背ヲナス、正南ハ伊賀ヲ包ミテ、油日山、土岐峠等アリ、遂ニ南ニ走リ、大和

紀伊ニ入り、占野熊野ノ重山疊峯トナリテ、南洋ノ岸ニ盡ク、○横山、新穂ノ諸岳ハ、伊吹山ノ後陰ニ列リ、北ニ環リテ、越前ト界ヲ分ツ、椋木峠山中越等ハ、大山脈ノ間ヲ貫ク坂路ニシテ、頗險峻ナレド、北國ニ往來運輸スル者ハ、馬共ニ是ニ由ラサルナシ、

全國ノ川流ハ、四境ノ山溪ヨリ出デ、悉湖ニ入ル、上俗ハ八百ハ水アリト云フ、然レモ平時ハ水ナキ者多シ、且川路ハ何レモ長キ堤上ニアリテ、其高ハ殆ど人家ノ屋梁ト均シキ者アリ、黑津川ハ、

源ヲ土岐峠ニ發シ、北ニ下リテ西ニ轉ジ大戸ノ
龍トナル、沿岸ノ地ハ、即信樂郷ニシテ、孝謙帝ノ
宮趾アリ、其地性暴ニ適ヒテ、山城ノ宇治ト並稱
セラル、下流ハ田上川ト共ニ、勢田川ニ入ル、松尾
川ハ、高畑山ヨリ出テ、西ニ流レテ土山、水口ヲ過
ギ横田川ト云フ、野田川ハ、油日山ヨリ來リ、相會
ヒテ三上山ノ麓ヲ流レ、未ハ分レテ二川トナル、
本流ハ今濱ニ注ク、共ニ野洲川ト云フ、愛智川ハ、
釋迦岳ニ出テ、源流ニ萱尾瀧アリ、大上川ハ、三國
岳ニ發ス、一ニ高宮川ト云フ、各西ニ流レテ安土

彦根ノ間ニ入ル、其他ハ仁保、善利ノ諸川アリ、湖
西ハ石田川、安曇川アリ、而テ湖北ニ妙川アリ、新
穂岳ニ出テ、西ニ折シ、草野川ヲ并セ、椽木峠ヨ
リ來ル、高時川ト共ニ、長濱ノ北ニ落ツ、朝妻川ハ
源ヲ靈山ニ發シ、伊吹山ノ南ニ出ツル、大富川ヲ
併セ、朝妻ニ至リ、湖ニ入ル、故ニ名ク、北隅更ニ余
吾川アリ、源ヲ余吾湖ト云フ、周回一里半、賤岳ヲ
以テ、大湖ノ間ヲ限ル、湖ノ北ハ、木ノ木、柳瀬ヨリ、北
ハ、椽木峠ニ至ル、村里皆兩山ノ峽ニアリ、山内ト
稱ス、越前ノ兵常ニ此間ニ出テ、敗亡スル者前

後兩氏アリ、朝倉氏ハ淺井氏ヲ助ケテ姊川ニ敗
レ共ニ其祀ヲ斷ツ、柴田氏ハ輕進シテ柳瀬ノ敗
リ國忽亡滅ニ就ク、兩次ノ勝敗遂ニ織田氏、羽
張氏ヲシテ大ニ其志ヲ得セシム、賤岳ノ七槍ハ
尤其著名ナル者ナリ

美濃ハ多藝、石津、不破、安八、池田、大野、木巢、席田
厚見、各務、方縣、山縣、武儀、郡上、賀茂、可兒、土岐、惠
那、及羽栗、中島、海西ノ二十一郡ナレ、氏羽栗以
下ハ、元尾張ノ地ナリ、木曾川ノ變遷ニ由リテ
此國ニ分屬ス、故ニ兩國同名ノ郡アリ

東北西ノ三面ハ連山繞リ圍ミ、北境ハ謂ユル大
山脈ニシテ、毘沙門岳、岩岳、明神山、屏風山等相列
リテ、殊ニ重深ナリ、稍西南ニ赴キテ、雷冥權現ノ
諸山並列シテ、伊吹山ニ接ス、國內ハ中央ヨリ西
南ニ亘リテ、不破野、大野、各勢野ノ三野アリ、國名
ノ由リテ起ル所ナリ、故ニ地勢甚平坦ニシテ直
ニ尾張、伊勢ニ連ル土地膏沃ニシテ、多ク良米ヲ
産シ、河道四通シテ、運漕極テ便ナリ、然レモ往々
水害ヲ受ク、木曾川ヲ以テ其國境ヲ分テリ、
木曾川ハ源ヲ木曾山中ニ發シ、東ヨリ来リテ西

南ニ流シ、落合ヨリ川合ニ至ル迄、其間、十五里、兩岸相逼リ、水流急激ニシテ、舟ヲ通ズルヲ能ハズ、其沿岸ノ郡邑モ悉ク山間ニアリ、此地ハ國ノ東南隅ニシテ、三河、飛驒ノ間ニ夾マリ、東ハ惠那岳、高ノ聲エ、十曲嶺、其北ニ並ビテ、其ニ信濃ニ接ス、嶺上ヲ木曾ノ分界トナス、其他又琵琶峠十二峠等アリ、中津川、大井川等ハ、悉ク木曾川ニ入ル、惟土岐川ノミ南ニ下リテ、尾張ニ入ル、飛驒川モ亦直流急下シ、馬瀬川ヲ併セ、南ニ流レテ川合ニ會ス、兩川相合フテ、水勢愈大ナリ、一里ニシテ太田ニ至

ル、山圍始テ解ケ、又舟行ノ利アリ、國境ニ沿ヒテ、西ニ赴キ、各務野ノ南ヲ限リ、笠松ニ至ル、此地ハ頗ル繁盛ナル街市ナリ、是ヨリ以下ハ漸ク大船ヲ用テ往復、殊ニ繁シ、洲股川ト合ヒテ、南ニ流ル、此川ハ源ヨリ海口ニ至ル、長流六十里ナレバ、河運ノ便ハ、其半ニ及バズト云フ、

郡上郡ハ、諸郡ノ上ニ居リ、東ハ飛驒ニ接シ、北ハ越前ニ界ス、大日岳、兩國ノ中間ニ峙テ、西麓ニ阿彌陀瀧アリ、飛流五十丈、頗ル奇觀ナリ、其傍ニ村摩池アリ、東ニ水宇禮池アリ、衆流相集リ、藍見川ト

ナリ、山間ヲ南ニ下ル數里ニシテ、既ニ舟楫ノ利
アリ、曾代、立花ヲ過ギ、毘沙門岳ヨリ來ル牧川ヲ
併セ、西ニ赴ク、此間ハ兩岸ノ地、往々景勝ノ處多
シ、岐阜ヲ過ギテ、長良川ト云フ、是ヨリ沿岸ノ地
悉平坦ナリ、系貫川ヲ併セ、下流ヲ洲股川ト云フ、
此地ハ養和ノ古戰場ニシテ、平重衡、大ニ源行家
ヲ敗リ、其姪義圓ヲ殺シ、其子行賴ヲ生擒セリ、平
野ノ中央ヲ、横流スル巨川ナルヲ以テ、水害ノ多
キ、實ニ此川ヲ以テ第一トナスト云フ、
揖斐川、藝川ハ共ニ北境ノ山溪ニ發シ、一ハ東一

ハ西、各山間ヲ出テ、大野ヲ把キテ相會シ、杭瀬川
ト云フ、大垣ノ東ヲ過ギテ、舟運ノ往來、伊勢ノ桑
名ニ通ズ、栗笠ニ至リ、牧田川ヲ併セ、南流シテ伊
勢尾張ノ間ニ入ル、伊尾川是ナリ、

岐阜ハ稲葉山ニ據リ、長良川ヲ帶ビ、東南ハ各務
野ヲ一望ス、街市ハ加納ノ城市ト相連ル、其間ニ
里計其南ハ笠松ニ接ス、故ニ運輸ノ便、甚盛ニシ
テ、一都會ノ地タリ、齋藤道三、其主土岐氏ヲ逐ヒ
テ、此國ヲ奪ヒ居城ヲ茲ニ構フ、其子龍興ニ至リ、
織田氏ニ滅サル、織田氏更ニ城樓ヲ稲葉山ニ築

キ尾張ノ清洲ヨリ来リ遷リ、後又近江ニ遷ルト云フ。○大垣モ亦一都會ナル城市ニシテ、越前近江ヨリ、東海道ニ出ヅルノ官道ニ當リ、水陸共ニ通路アリ、石田三成ノ兵ヲ舉ゲテ、徳川氏ニ抗スルヤ、東軍ヲ此城ニ要セントシ、遂ニ出デ、關原ニ戦ヒ、西軍大ニ敗ル、此原ハ即、不破野ニシテ、又青野トモ云フ、天武帝、不破關ヲ置キ、伊勢ノ鈴鹿越前ノ愛發ト並立テ、三關ト稱ス、桓武帝ニ至リ、其徒ニ中外ヲ隔絶スルヲ以テ、是ヲ廢ス、然レハ關下ノ平原ナルヲ以テ、今猶此稱アリ、藤川ハ

伊吹山ヨリ出デ、原中ヲ流レ、藤子川ト云フ、下流ハ即、牧田川ナリ、

元正帝多度山ニ幸シ、醴泉ヲ賞覽シテ、名ヲ養老ト賜ヒ、遂ニ養老ヲ其年ニ號ス、瀑布ノ高、僅七丈餘ニシテ、甚大ナラザルモ、山中頗幽清ノ地タリ、此山ハ近江ニ接シ、靈山ノ東面ニ當リテ、別ニ一帯ノ小山脉ヲナシテ、南ニ亘リ、伊勢ノ多度山ニ連ル、

飛驒ハ、三郡ニシテ、大野、吉城、益田ト云フ、西隅ノ鄉村ハ、白川沿岸ノ地ニシテ、地勢僻絶、其相

統屬スルヲナキヲ以テ、假ニ大原郡ヲ置キ、是
ヲ區別セシガ、近時、再大野郡ニ屬スト云フ、
四境共ニ大岳峻嶺、相圍ミテ、國中モ山深ク谷幽
ナリ、謂ユル全國ニ亘ル、大山脈ノ中間ニ在ル國
ニシテ、氣候特ニ寒久、五月花咲キ、七月麥熟ス、東
南西ノ三面ハ、信濃、美濃ニ包マレ、其往來スル坂
路ハ、何レモ險シキ峠ニシテ、三冬ハ冰雪凝リ結
ビテ、人馬ノ通ゼザルヲアリ、而テ水流ハ、多ク北
ニ流レテ越中ニ入ル、故ニ地勢ハ、東山ニ背キ北
陸ニ向ヒタリ、

高山ハ國ノ中央ナル都會ナリ此間ハ地形平坦
ニシテ、宮川ニ大橋ヲ架久、街市繁盛ナルヲ實ニ
山間ノ一大邑タリ、天正中、金森氏國中ノ諸族ヲ
平ケ、三木氏ノ舊規ニ因リテ、城ヲ此地ニ築ク、其
封ヲ移スニ及ビテ、遂ニ廢墟トナル位山ハ其南
ニ峙チ、満山、一位樹ニシテ、其昔ハ例ニ御笏ノ用
ニ供ス、仍テ此名アリ、其上ヲ川上岳トナシ、其西
ヲ龍峯トナス、而テ東ニ亘リテハ、一帯山脈相連
リ、地勢ヲ限リテ、赤鞍岳ノ麓ニ達ス、國中ノ諸川、
是ヲ以テ其流ヲ異ニス、

乗鞍岳ハ、東境ニ跨ル大岳ニシテ、國中第一ノ高山ナリ、硫黄岳、槍岳、笠岳、中俣、北俣、兩岳等並列シテ、越中ノ立山ニ連ル、總テ噴火山ニシテ、山頂多ク硫烟ヲ吐ク、正南ニ一大山アリ、其高ハ乗鞍ト相均シ、是ヲ木曾御岳トナス、西境ハ中山、鷲岳等美濃ノ郡上ト山脈ヲ分チ、大日岳、殊ニ高峻ナリ、白木峰ハ上下兩峯アリ、相並ヒテ正北ノ國境ニ聳ル、宮川、白川ノ兩川ハ、峯ノ左右ヲ抱キテ、共ニ越中ニ入り、宮川ヲ神通川トナシ、白川ヲ射水川トナス、

宮川ハ源ヲ位山ニ發ス、川上川ハ西ヨリ来リ、八賀川ハ東ヨリ来ル、共ニ高山ノ北ニ會シテ、漸大川ヲナシ、古川ニ至リテ、荒城川ヲ并セ、下流又、小鳥川ヲ并セ、曲屈シテ一谷ニ至リ、高原川ト合ス、是ヲ國ノ北境トナス、高原川ハ乗鞍岳ノ北陰ニ出デ、雙六川ヲ并セ、舟津ヲ過キテ、又跡津川ヲ并ス、共ニ東境ノ連岳ニ出ヅル者ニシテ、上流ニ温泉多シ、○白川ハ西隅ノ溪谷相集リ、一川ヲナス、沿岸ノ村邑ハ、白川郷ト呼ビ、地勢風俗、自別境ヲナス、其地ハ加賀越前ノ後背ニ當リ、白山高ク、其

西ニ聳立ツ、三方嶺及笈岳、劍岳ノ諸峻山相並
ビテ、道路ノ通ザサル處トス。○總テ此國ノ鄉村
ハ、山間ニ夾レ、悉河岸ニ沿フ者ニレテ、荒城郷、高
原郷等ノ稱アリ、舟津古川ノ兩地ハ、高山ニ次ク
街市ニテ舟津近傍モ亦少ク平坦ナリ。○益田郡
ハ、乘嶽岳ノ西、御岳ノ北ニアリテ、兩岳ヨリ出ヅ
ル水流ハ、相集リテ山間ヲ環リ流レ、遂ニ南ニ赴
キテ一河ヲナス、郡名ヲ以テ是ヲ呼ブ、沿岸ニ温
泉多ク出ヅ、湯島ハ浴室殊ニ盛ナリ、其流ハ川上
山ヨリ來ル、馬瀬川ト共ニ美濃ニ入ル、飛驒川是

トリ

抑此國ハ、南朝ノ時、姊小路家綱、國司ノ任ヲ受ケ、
杉崎城ニ居リ、抑御所ト稱ス、相傳フル十餘世、凡
南朝ノ國司、其久シキヲ得ル者、伊勢ト兩國ノミ
天正初年ニ至リ、三木氏ニ滅サル、城址、猶古川ノ
北ニ存ス、三木氏ハ應永中ヨリ、世々國ノ南半ヲ
領シ、其五世ヲ久安ト云フ、美濃ノ齋藤氏ト婚ヲ
結ビ、越後ノ上杉氏ト好ヲ通ジ、遂ニ國司ヲ亡シ
テ、其姓ヲ冒シ、江馬氏ヲ滅シテ、高原郷ヲ取り、威
ヲ近隣ニ振フ、其盛ナルニ當リテハ、甲斐ノ武田

モ、亦其志ヲ得ガルニ至ルト云フ、
藤橋籠渡ハ有名ナル奇險ノ地ナリ、此國中ノ川
々ハ、何レモ兩岸絶壁相逼リ、底深クシテ水流ヲ
見ズ、其舟楫ニ論ナク、材木巨大ナルモ、撐筏ヲ下
スヲ能ハズ、故ニ往々橋航ヲ施人可カラザル處
アリ、藤橋ハ舟津ニアリテ、高原川ニ架ク、其製ハ
藤蔓ヲ編ミテ、兩岸ノ間ニ張ル、長三十六丈、幅三
尺計、下ニ一柱ヲ用井ズ、其狀一匹練ヲ半空ニ晒
スガ如シ、籠渡ハ一谷ニアリ、大繩ヲ兩岸ノ巨木
ニ繫ギ、駕籠ヲ其繩ニ懸ケ、人ヲ其中ニ盛リ、更ニ

細繩ヲ籠ニ結ヒ岸上ノ人互ニ引キテ以テ行人
ヲ通ズ、岸ノ相隔タル十二丈計、其中途ニ至リテ
ハ、駕籠次第ニ低下シテ、水面ヲ去ル僅ニ咫尺ニ
至ルト云フ、近來道路修繕ノ利ヲ興シ、此二處ノ
如キハ、其官道ニ當ルヲ以テ、板橋ニ改造セリ、然
レモ白川ノ大牧等ハ、猶籠渡ヲ用キタリ、
信濃ハ、伊奈諏訪筑摩安曇更科水内高井埴科
小縣佐久ノ十郡アリ
東海北陸兩道ノ間ニ横ハル大國ニシテ、我國内
第一ノ高地ナリ、其四境ハ十國ニ接シ、南北六十

里計、東西是ニ半ス、其土地廣大ナルヲ、全國中ニ
モ多ク其比ヲ見サレ、山脈環リ亘リテ、國內ヲ
分チ限リ、其間、各一國ノ如キ者ヲナス、土俗、其地
勢ノ平坦ナルヲ以テ、是ヲ平ト呼ブ、南ハ即、其昔
諏訪國ヲ置レシ地ニテ、土人、今猶、國ヲ以テ是ヲ
呼ブ、西ヲ松本平ト稱シ、平坦十里ニ亘ル、北ヲ善
光寺平ト云フ、即川中島四郡ノ地ニシテ、地勢東
北ニ向ヒテ、上野、越後ノ間ニ衝キ入ル、東ヲ佐久
平ト云フ、上野甲斐ノ間ニ夾ル、而テ木曾ハ別ニ
郷タリ、

新田峠ハ登降五里、山道中ノ大嶺ニシテ、其峻險
ナルトハ、箱根碓氷ノ上ニ出ヅ、此山ヲ國ノ中央
トナシ、是ヨリ山脈分レテ三方ニ亘ル、東ニ大門
峠アリ、北ニ保福寺峠アリ、西南ヲ鹽尻峠トナス、
立科山ハ大門峠ノ上ニ峙チ其東ヨリ八峯並列
シテ、南一赴ク者ハ、甲斐ニ跨ル八岳ニシテ、其脈
直ニ金峯山ニ連ル、○駒岳ハ峯巒峻秀ニシテ風
越山ト相並ブ、其脈ハ鹽尻峠ヨリ起リ、西南ニ亘
リテ、美濃、三河ノ間ニ入ル、○保福寺峠ハ、南ニ武
石峠アリ、北ニ室賀峠アリ、山脈ノ北端ヲ姨捨山

トナス、東面ハ千曲川ヲ隔テ、鏡臺山ト相對シテ
山峽ヲ夾ム、西陰ニ大嶺アリ、猿馬場ト云フ、群山
相連リ、犀川ニ跨リテ北ニ赴キ、越中、越後ノ間ニ
接ス、

全國ノ水流、兩分シテ南北ニ各流ス、諏訪木曾ハ
東海ニ注キ、其他ハ相集リテ北陸ニ入ル、犀川ハ
駒岳ニ出テ、松本平ノ中央ヲ貫キ、梓川、高瀬川ヲ
并セ、北ニ赴キテ兩山ノ峽ニ入ル數里、斷岸相逼
リ、僅ニ舟行ヲ通セシガ、往年地震ノ時、岸崩レテ
川塞ル、近來開鑿シテ再、舊ニ復スト云フ、川流ハ

東ニ轉ジテ山間ヲ出デ、又、平地ヲ流レ、川中島ニ
至リテ千曲川ニ合フ、其流、二十里ニ及ブ、千曲ハ
又、千隈トモ云フ、源ヲ金峯山ニ發シ、山間ヲ北下
シテ平原ニ出ヅ、是ヲ佐久平トナス、西ニ赴キ小
諸上田ヲ過ギ、姨捨山ノ麓ヲ北流シ、又、東ニ轉ジ、
松代ニ至リテ、直ニ北ニ流レ、犀川ニ會ス、其流、二
十五里、二川尤大ナリ、茲ニ至リ相合ヒテ益、大ヲ
致シ、平野ノ間ヲ流ル、十里計、飯山ヲ過ギ、漸兩
山ノ峽ニ入リ、數里ニシテ大瀧ニ至ル、兩岸高ク
過リ、河中、岩石多ク、時ツ、國境ハ大山脈、直リ限リ

テ、河流ノ注ク可キナシ故ニ山峽ヲ斷チ貫キテ
以テ下ル、是ニ加フルニ越後ハ、地勢漸低ニ向フ、
故ニ水高ヨリ注キ流レ、其勢瀑布ノ如シ、舟運ハ
松代、飯山ノ間、常ニ相上下ス、近來更ニ上流ニ沂
リテ上田ニ達ス、其間七八里、然レモ僅ニ小舟ヲ
通ズルノミ、犀川ハ松本ヨリ既ニ其便アリテ、水
程十餘里ノ遠キニ及ブト云フ、
養老五年、始テ諏訪國ヲ置キ、後十年舊ニ復ス、此
地ハ北ニ和田峠アリ、東ニ八岳アリ、西ハ鹽尻峠
ノ山脈相連ル、中間ニ湖水アリ、周回五里、呼ブニ

郡名ヲ以テス、謂ユル諏訪湖、是ナリ、此湖ハ嚴寒
ノ時ハ、冰凍リテ、人馬共ニ冰上ヲ往來ス、諏訪上
下神社、又温泉ノ浴場アリ、高島城ハ東岸ニ臨ミ、
諏訪氏、世々茲ニ居ル、其甲斐ニ通スルノ處ハ、地
漸平垣ナリ、中間ヲ金澤トナス、武田信玄ノ兵ヲ
此國ニ出ス、實ニ此路ヨリス、遂ニ諏訪氏ヲ滅シ、
其女ヲ納レ、子勝頼ヲ生ム、勝頼ノ亡ブルヤ、其弟
仁科信盛、獨、高遠城ニ據リテ、遂ニ奮死ス、其城、今、
金澤ノ南六里ニアリ、山中ノ一邑タリ、溪流、相集
リテ、西ニ下リ、天龍川ニ合フ、是ヲ三峯川ト云フ、

○天龍川ハ、湖ヨリ出テ、南ニ流ル、急激直下二十餘里ニシ、遠江ニ入ル、川ノ左右ヲ伊奈郡トナス、東南ハ甲斐、遠江ノ背ニ當リ、連岳重叠シ、道路通ゼザル十餘里、西北ハ駒岳、風越ノ山脈相連リテ、美濃ノ惠那岳ニ接ス、其西南ノ一隅僅ニ山路ヲ三河ニ通ズ、河岸ノ村邑ハ、飯田ヲ以テ、小都會トナス、是ヨリ始テ舟楫ノ利アリ、此地、峽間ニアレ、氏南ニ出ヅルヲ以テ、季候、最温暖ニレテ、春色ヲ来ル、木曾、松本地方ヨリ、旬餘ヲ早クスト云フ、

木曾ハ、岐蘇トモ云フ、御岳、高ク聳エテ、飛彈ニ跨リ、其秀峻ナルヲ、殆富士山ニ亞ク、四時、冰雪アリ、駒岳南ニ峙テ、其高ヲ争フ數峯、連續シテ、伊奈ト腹背ヲ分ツ、其兩岳ノ間ヲ木曾山中ト稱ス、東ハ鳥居峠ヨリ、西ハ十曲峠ニ至ル、二十一里、村里悉、峽間ニアリ、山ニ據リ、谷ニ臨ミ、氣候寒烈ニシテ、田畝少ク、米穀、悉、他方ヨリ輸入ス、道路ハ山腹ヲ繞リ、崖縁ニ懸リ、斷岸ノ處ハ、棧道ヲ設ク、近來是ヲ改修スト、雖モ、猶峻路險仄多シ、木曾川ハ、鳥居峠ノ北ナル萩曾ヨリ出テ、宮越、福島ヲ過ギ、御

岳川ト合ヒ、水勢頗大ナリ、其流タルヤ、常ニ岩壁ニ逼ラレテ、高ヨリ低ニ注グ、河中ハ、恠石、危岩、相觸レ、急激怒號シ、或ハ懸リテ瀧トナリ、或ハ洄リテ淵トナル、其間ニ寤覺床ト稱スル處アリ、一巨石、水ヲ束ネ、狹キヲ丈餘、其長、五六十間、水色、藍ノ如シ、其左右ハ、岩石河中ニ横リ、實ニ山中ノ一勝地タリ、其他、小野瀑布アリ、亦奇觀トス、昔源義仲此間ニ生長シ、兵ヲ擧グルニ及ビテ、城ヲ宮腰ニ構フ、今井樋口等諸臣ノ居跡、共ニ各地ニ存ス、義仲ノ後裔、再此地ニ據リ、水曾氏ヲ稱ス、數世ノ孫

義康ニ至リ、福島ニ居リ、其子義昌相繼ギテ、屢武田氏ト戦ヒ、天正十年犬ニ之ヲ鳥居峠ニ破ル、抑山中ノ地ハ、元、美濃ニ屬シ、道路ノ通ゼザル處ナリシガ、和銅六年、始テ山路ヲ開キテ、兩國ノ往來ヲ通ズ、其後、百六十七年ヲ經テ、元慶三年、其國府ト隔タルノ遠キヲ以テ、割キテ、當國ニ屬スト云フ、然レ氏、土人、尚別境ヲ以テ自居レリ、松本平ハ、桔梗原、其南ニ連リ、鹽尻峠ヲ以テ諏訪ニ界シ、鳥居峠ヲ以テ木曾ニ接ス、比ハ仇坂、幸峠等相重リテ、猿馬場ニ連ル、松本ノ城市、其中間ニ

アリ、故ニ名ク、東西ハ五六里計、其長ハ犀川ノ西
ニ跨リ、十餘里ニシテ、池田大町ノ二邑ニ及ブ、其
奥ニ青木湖アリ、下流ヲ高瀬川トナス。○飛騨ノ
乗鞍岳、正西ニ聳エ、山腹ニ白骨ノ温泉アリ、即梓
川ノ源ナリ、穂高神明ノ諸岳ハ、笠岳、槍岳ト相並
ブ、其西北ノ隅ニ當リテ、一高峯アリ、高ク連岳ノ
上ニ秀ヅ、是ヲ越中ノ立山トナス。○此平ハ田野
開ケテ村里相連レ、西境ノ連山、常ニ風雪ヲ吹
キ、寒氣ノ烈シキハ、木曾飛騨ニ減ゼズ、松本ハ一
方ノ都會ニシテ、人烟繁盛ナル、國中ノ第一タ

リ此城、元、深志ト呼ブ、正東ニ冠岳ヲ負ヒ、其陰ヲ
保福寺峠トナス、西ニ犀川ヲ帶ヒ、行舟常ニ下流
ニ通ズ、小笠原氏、世々、茲ニ居リ、武田氏ト敵國ト
ナリ、常ニ戰鬪アリ、天文中、鹽尻峠ノ敗レヨリ、後
又、拮据原ニ迎ヘ戰ヒテ、兵潰エ、城陷リ、舉族悉、逃
レテ越後ニ落チ延ビタリ、
善光寺ハ、有名ノ佛閣ナルヲ以テ、此地ノ總稱タ
リ、地形、平坦ニシテ、四方、共ニ七八里ニ亘ル、國中
ノ沃土ナリ、犀川、千曲川、相合ヒテ、川道、三又ヲナ
ス、故ニ川中島ト云フ、其地勢、信濃越後ノ中間ニ

アリ、壽永中木曾義仲、城長茂ヲ茲ニ敗ル、其後村上氏、葛尾城ニ居ル數世、更耕墾以下四郡ヲ領ス、武田氏ノ鄰傍ヲ威服スルニ當リテ、義清支フルヲ能ハズシテ、越後ニ走ル、遂ニ武田、上杉ニ氏ノ戰端トナリテ、互ニ四郡ノ地ヲ争フ數十年、其最大ナル者五田、是ヲ川中島ノ五戰ト稱ス。○葛尾ノ城址ハ、松代ノ南ニアリ、其山ハ鏡臺山ト相並ヒ、其後ヲ地藏峠トナス、其脈連續シテ、東ニ亘リ、四阿、白峯ノ連山トナリテ、北ニ赴キ、上野ノ境ヲ限ル、山間ニ米子、神湍ノ瀑布アリ、又山田、角間

ノ温泉アリ、澀湯尤顯ル、○戸隱山ハ一方ノ高山ナリ、飯綱、黒姫ノ諸山其東ニ峙チ、大日、藥師ノ衆岳、其西ニ秀テ、北陰ハ越後ノ妙高山、焼山ト相接ス、黒姫ノ山麓ニ野尻沼アリ、其水北ニ流レテ越後ニ入り、關川ニ合フ、其他ノ溪流ハ、悉川中島ニ會ス、○姥捨山ハ平野ノ正南ニ當リ、冠着ノ諸山ト相並ズ、此山ハ看月ノ名所ニシテ、謂ユル更科田毎ノ月ナリ、鏡臺山ハ中秋ノ望夜ニ至リテ、新月昇ル時、其山巔ニ出ヅ、因テ此名アリシトゾ、淺間岳ハ有名ノ噴火山ニシテ、其名尤著シ古ヨ

リ富士山ト並稱ス、其峯ハ上野ノ境ニ峙キ、山頂
常ニ硫烟ヲ出シ、又時トシテハ、山火ヲ吐キ、灰石
ヲ飛バースコアリ、故ニ山麓數里ノ地ハ、悉赤土ニ
シテ、田畠ナク、樹木ナシ是ヲ淺間ノ燒野ト云フ、
廣原、其南ニ連リ、四方四五里ノ間ニ亘ル者ヲ佐
久平ト呼ズ、西ハ千曲川ノ左右ニ沿ヒ、上田ニ達
ス、其間モ亦平坦ニシテ、上田原ハ、即村上義清ノ
敗績セシ處ナリ、上田ハ一都會ノ地ニシテ、北國
ノ品物、多ク聚ル、北境ハ淺間ノ山脈、相連リ、烏帽
子岳、其中ニ聳ヒ、西端ハ地藏峠ニ接シ、上田、松代

兩地ノ間ヲ限ル、西ハ立科、和田ノ諸山ニ包レハ
岳、其南ニ列リ甲斐ノ境ハ、群山重叠スル十里金
峯最高シ、其脈直ニ秩父山ニ接ス、此山々ハ即海
山、兩道ノ中間ニ亘ル山脈ハ、由テ起ル所ナリ、蓋
淺間ノ山脈、南ニ走ル者、碓氷、荒船ノ諸山ニシテ、
上野ノ境ニ連リテ、關東ノ西隅ヲ限ル、甲、武、上、信
ノ界ハ、其集リ重ル處ニシテ、其直行スル者ハ、富
士山ニ接シ、折レテ西ニ赴ク者ハ、甲斐ヲ包ミテ
駿遠參ノ北境ヲ限ル者トス、

上野ハ十四郡利根、吾妻、碓氷、甘樂、片岡、多胡、緑

野、群馬勢多山田、名和、佐位新田、邑樂是ナリ、
古ハ毛野ト稱シ、下野ト一國ニシテ、共ニ關東ニ
屬ス、此國ハ八州ノ西北隅ニ居レバ、國境ハ深山
重嶺ヲ負フト雖、凡、東南ニ亘リテハ、地勢平坦ニ
シテ、直ニ武藏、下總、下野ニ接シ、河流ノ外、復、境界
ナシ、○赤城、榛名ノ兩山、相並ビテ、國ノ中央ニ聳
ニ、各南向シテ、屹然對立ス、是ヲ山野ノ限トナス、
赤城山ハ、山勢頗高キモ、其峻絶ナラズ、南麓平ニ
延ビ、其間、三里計山頂ヲ地藏峠ト云フ、榛名山ハ、
其西ニ峙テ別ニ一山ヲナス、數峯相重リ、其高

キ者ヲ相馬山ト云フ、山上ニ小湖アリ、其傍ハ奇
石恠巖多ク、峙チ西溪ノ峽最奇ナリ、○兩山ノ陰
ハ、利根、吾妻ノ二郡ニシテ、東ハ下野ノ白根山、庚
申山ノ背ニ當リ、北ハ烏帽子岳、文珠山、駒岳等ノ
諸岳相連ル、其間ニ尾瀬沼アリ、是ヲ岩代ノ境ト
ナス、蓋、奥羽ノ間ヲ亘リ來ル大山脈、此際ヨリ折
テ、西ニ赴ク、故ニ峯巒殊ニ重疊セリ、利根川、實
ニ源ヲ此中ニ發ス、山脈ノ中ニ三國峠アリ、其頂、
越後、信濃ニ跨ル、故ニ此名アリ、其路險シキヲ數
里ナレモ、北國ノ官道タルヲ以テ、人馬常ニ往來

ス、雪中ハ往々行路ヲ絶ツニ至ルト云フ、西ハ信濃ニ包レテ、白根、吾妻ノ諸山相限ルハ、四阿、白峯ト同名異字ノミ、吾妻川ハ萬座、地藏山田ノ諸水ヲ集メ、山谷ノ間ヲ東ニ下ル、利根川ノ一源タリ、村里、慈、川岸ニアリ、其淺間山ノ北陰ナルヲ以テ、溫泉、甚多ク、草津、最盛ナリ、四萬殊ニ良泉タリ、其澤、渡河原等アリ、榛名ノ北麓ナル伊香保モ、亦良湯タリ、

利根川ハ、文珠山ニ出ヅル者ヲ正源トナス、重山ノ峽間ヲ南ニ下リ、赤谷川ヲ并セ、沼田ニ至リ、又

片科川ヲ并ス、兩岸高ク迫リ、屈曲環流シテ、水勢急激ナリ、漸下リテ白井ニ至リ、吾妻川ニ合ヒテ其流、頗大ナリ、且此地ハ、榛名、赤城兩山ノ麓、互ニ絶ユル處ニシテ、是ヨリ山圍始テ解ケ、前橋ヲ過ギ直ニ平野ノ間ヲ貫キ南ニ下リテ、武藏ノ境ヲ衡ク、烏川、西ヨリ来リ會シ、共ニ折レテ東ニ赴キ、川流益大ナリ、國境ヲ限リ流ル、一十餘里ニシテ、下總ノ境ニ至リ、渡瀨川ニ合ヒテ、遂ニ兩國ノ間ニ入ル源ヨリ竝ニ至ル凡三十里、是ヲ上利根川ト云フ、○白井ハ上杉憲實ノ城趾ナリ、其足利

地誌要略 卷之二

氏ニ代リテ關東管領タルヤ、數世相傳ヘテ憲政ニ至ル、北條氏ニ攻メ陷レラレテ、越後ニ走リ、長尾氏ノ助ヲ得テ、厩橋等數城ヲ復スレ氏、遂ニ敗亡レテ、地武田氏ニ屬ス、德川氏ノ甲斐、信濃ヲ得ルニ及ビテ、關東ヲ以テ、北條氏ニ付シ、且ニ其侵地ヲ返ス、獨、真田昌幸、沼田ヲ守リテ、肯セス其地タルヤ、八州第一ノ險要ニシテ、攻守三年、遂ニ拔クヲ能ハズト云フ、

妙義山、又、白雲山ト云フ、金洞、金雞ノ二山ト相並ビテ、平野ノ正西ニ聳エタリ、三山悉、岩石ニシテ

蟠踞、岩、大日峯等ノ奇絶ナルヲ、殆、名狀スベカラズ、中ニモ金洞ノ石門ノ如キ、大小四箇、最奇觀タリ、山後、又一奇山アリ、其形ヲ以テ荒船ト呼ブ、其山ハ國境ニ亘リ、南ニ赴キ、信濃武藏ノ重山中ニ入ル、其隅ヲ三國山ト云フ、○碓氷峠、峻峻三里、信濃ニ跨リ、淺間岳ノ脈ヲ承ケテ、南ハ荒船山ニ連ル、此山ハ箱根山ト共ニ、海、山、兩道ノ要路ニシテ、亦、坂東ノ稱ト起ル所ナリ、碓氷川ハ山中ヨリ出テ、其瀬淺クシテ、流、頗、急ナリ、妙義山ノ北麓ヲ東下シ、安中ヲ過ギ、郡中ノ水ヲ集メ、高崎ニ至リテ

鳥川ニ入ル、燕川、神流川、共ニ甘樂ノ轉稱ニシテ、
其源ヲ西境連山ニ發シ、各郡中ノ溪流ヲ分チ、并
ヒテ東ニ流レ、亦鳥川ニ入ル、燕川ハ富岡ヲ過ギ
テ、行舟ノ利アリ、神流ハ武藏ノ境ニ沿ヒテ流ル、
平時ハ水流ニ乏シク、雨後ノ水路ナルノミ、一帯
ノ長岡、妙義山ノ麓ヨリ起リテ、東ニ連ル六七里、
而郡ノ界ヲ亘リ、高崎ノ南ニ至リテ盡ク、變テ廣
野原ト云フ、高崎ハ繁盛ナル城市ニレテ、前橋ト
相隔テル三里、各一都會ヲナス、前橋ハ、即、
既橋ニ係レリ、

鳥川モ亦利根川ノ一源ナリ、碓氷山ノ北ヨリ来
リ、高崎ノ東ニ至リ、姑テ舟楫ヲ通ズ、東南ニ流レ、
新町五料ヲ過グ、是ヲ國境トナス、○渡瀬川ハ、庚
申山ノ前面ヨリ来リ、西南ニ下リ、坂東川ト云フ
山谷ヲ環流シ、桐生州ヲ并セテ、東ニ轉ジ、今レテ
二派トナリ、本流ハ下野ニ入ル、支流再分レ、一ハ
南下レテ、直ニ利根川ニ入リ、一ハ國境ニ沿ヒテ、
又、本流ト合ヒ、南ニ環リ、下總ノ境ヲ流ル、故ニ界
川ト云フ、此川ハ、佐野中川ト稱シ、毛野ヲ今國ス
ル時ニ其上下ノ界ヲ定ムル者ニシテ、亦利根川

源流一ツリ、

太田、館林ノ地ハ、國ノ東南隅ニレテ、渡瀬、利根ノ河間ニ夾リ、地勢狹長且、卑濕ノ處、沼澤多シ、多田良沼、板倉沼等アリ、館林モ亦一都會ニレテ、太田ハ、新田義貞ノ義旗ヲ揚ガル處ナリ、城跡今猶存シテ金山ト云フ、抑此國ハ、養蠶ノ業特ニ盛ナリ、郡村ノ間、桑田相連ル、近來富岡ニ製絲場ヲ構ヘ新ニ器械ヲ備ヘテ、其業極ニ盛大ヲ盡ス、而テ桐生ハ、織物ヲ出ス、歲月已ニ久シ、上州織ノ著名ナレハ、實ニ此地ヲ以テナリ、

上野ハ、足利、梁田、安蘇、都賀、寒川、河内、芳賀、鹽谷、那須ノ九郡ナリ、

西北ハ、連岳重立シテ、國境ニ峙ツ、東ニ高原アリ、南ニ平野アリ、高原ノ水ハ、集リテ東流ス、常陸ノ中川、是ナリ、平野ノ水ハ、悉南ニ流ル、宇津宮、其中央ニ當リ、東ハ、絹川、是ヲ并セテ、常陸下總ノ間ニ入リ、末ハ、利根川ニ會ス、亦其一源タリ、思川ハ、以西ノ數流ト合ヒ、上野ノ境ニ至リ、渡瀬川ニ入ル、黒髮山、高ク聳エテ、連岳ノ中位ニ秀デタリ、是ヲ男體山ト云フ、如峯山、其北ニ峙ツ、是ヲ女體山ト

ナス、其他、大真子、小真子ノ諸山相重リテ、後陰ハ
 岩代、上野ニ跨レリ、山中ハ湖沼、瀑布、各數十アリ、
 共ニ奇景勝地ニシテ、湖ノ大ナル者ハ長、三里、幅
 ハ是ニ半ス、中禪寺湖ト呼ブ、其水、南ニ決シテ、華
 嚴瀧トナル、飛流、七十五丈、其雄壯ナルヲ、瀑布中
 ノ冠タリ、下流ヲ大谷川ト云フ、龍頭裏見、霧降、索
 麴等ノ瀑布、是ニ次ク、赤沼アリ、温泉、其傍ニ出ヅ、
 五色沼アリ、五箇、水色ヲ異ニス、○山麓ヲ日光ト
 ナス、東照神社ノアル處ニシテ、廣祠ノ結構ハ、金
 碧焜耀、實ニ天下ノ美麗ヲ極メタリ、大谷川ヲ隔

テ、街市アリ、鉢石ト云フ、宇津宮ト相距ル大道
 九里行杉老鬱ナル、亦行路ノ一美觀タリ、○庚申
 山ハ、白根ノ右ニ立チ、南ニ足尾銅山アリ、東ニ古
 峯原アリ、深山中ノ岩山ニシテ、石橋、洞門等ノ奇
 ナルヲ、殆妙義、榛名ノ上ニ出ヅ、重山一帶、其南ニ
 連リテ、上野ノ境ニ亘ル者ヲ、總稱シテ安蘇山ト
 云フ、其脈、盡クル處ヲ足利トナス、即高氏ノ郷土
 ニシテ、此地、古ヨリ學校アリ、相傳フ、小野篁ノ設
 ケシ處ト、其後、上杉憲實、書籍ヲ納レ、土田ヲ置キ、
 以テ生徒ヲ養フ、今猶存ス、此地方ハ、上野ノ太田

館林ト相接シ渡瀬川、西ヨリ来リ、兩派トナリ其間ニ分流ス、

那須岳ハ、五峯屏列シテ、南ニ向ヒ、其背ヲ岩代トナス、鹽原山、其西ニ峙チ、相並ビテ以テ高原ノ北ニ連ル、而テ東ヲ限ル者ハ、八溝山、磐城ノ隅ニ立チ其脈、南ニ亘リテ、鳥子、雞足ノ兩山ニ連リ、常陸ノ境ヲ限リ、佛頂山ニ至リテ盡ク、○高原ハ、那須野、鹽谷原ノ二野ニ分レ、相連リテ四方、十餘里ニ亘ル大率、荒蕪シテ、開墾ヲ得ルノ處甚稀ナリ、且寒風烈シク道路高低多ク、其官道ニ當ル處ハ、南

ハ氏家ヨリ北境ニ至ルマデ、行程十三里、其間ニ十三坂アリト云フ、其間ニ大田原、黒羽、鳥山、又佐久山、喜連川等ノ城邑アリ、又、那須、鹽原、共ニ温泉アリテ、来リ浴スル者、常ニ多シ、那須ハ舊地ニシテ殊ニ盛ナリ、鹽原ヨリ西南ニ續キタル峯ヲ、高原山ト云フ、中川、絹川ハ此山ヲ以テ左右ニ分レ流ル、群山、其西ニ重リテ、黒髮山ニ接ス、○箒川ハ母来トモ云フ、鹽原山中ヨリ来リ、佐久山ノ北ヲ流ル、佐比川ハ源ヲ山陰ニ發シ、大田原ヲ過グ、二川相合ヒテ東ニ赴キ、中川ニ入ル、中川ハ源流ヲ

那須川トナス岳ヨリ出デ、余笹川、黒川ヲ并セ、
黒羽ヲ過ギ、南ニ下リ、第川ト合ヒテ、水勢漸、大ナ
リ、烏山ニ至リ、狐川ヲ并ス、是ヨリ始テ舟運アリ
鳥子、雞足兩山ノ峽間ヲ貫キ出ヅ、中川ハ即、那珂
川ナリ、

宇津宮ハ奥羽、關東ノ要路ニ當リ、城市ノ繁盛ナ
ルヲ、東京以北ノ大都會タリ、土人ハ宮トノミ、唱
ス、此地ハ宇津宮氏、世々茲ニ居リ、足利氏ノ時、那
須、小山二氏、及、常陸ノ佐竹氏、下總ノ千葉、結城兩
氏等ト、共ニ關東ハ館ト稱セリ、○絹川ハ高原山

ノ奥ヨリ来リ、大谷川ヲ并セ、其流頗急駿ナリ、阿
久津ニ至リ、始テ舟運アリ、此川ハ長流三十里、其
當國第一ノ川ナレバ、古ハ毛野川ト云ヒシトゾ、
田川ハ宮ノ市中ヲ流レ、下總ノ境ニ入リ相會ス
別ニ小貝川アリ、佛頂山ヨリ出テ西ニ流ル、五行
川、氏家ノ北ヨリ来リ、真岡ヲ過キテ、相共ニ常陸
ニ入ル、是ヲ平野ノ東境トナス、思川ハ上流ヲ小
倉川ト云フ、古峯原ニ出テ、壬生ニテ黒川ヲ并セ、
稍下リ、姿川ニ合ヒ、小山ヲ過キ、出流山ヨリ出ツ
ル、出流澤、及、赤間沼ノ下流ト相合ス、是ヲ國境ト

ナス。○出流山ハ、太平岩船ノ諸山ト、安蘇山ノ前面ニ列リテ、平野ノ西境ニ並ブ、是ヨリ東南ハ、地勢下總ト相交リ、直ニ八州ノ平野ニ連リ、遠望數十里、渺トシテ其際ヲ見ズ、坂東太郎其間ニ横流シ、正東ハ筑波ノ雙峯、空濶ノ間ニ聳エタリ、近江晒、美濃紙、國名ヲ以テ是ヲ呼ブ、其品ノ良ニシテ、其業ノ盛ナルヲ知ル可キナリ、晒布ハ、野洲河原ニ於テ製造スル者、最夥シ、紙ハ、其品十八種アリ、牧川、藪川等上流沿岸ノ地ハ、村里皆是ノ業トス、琵琶湖ノ産ハ、源五郎鮒ヲ第一トナシ、鯉ハ、勢

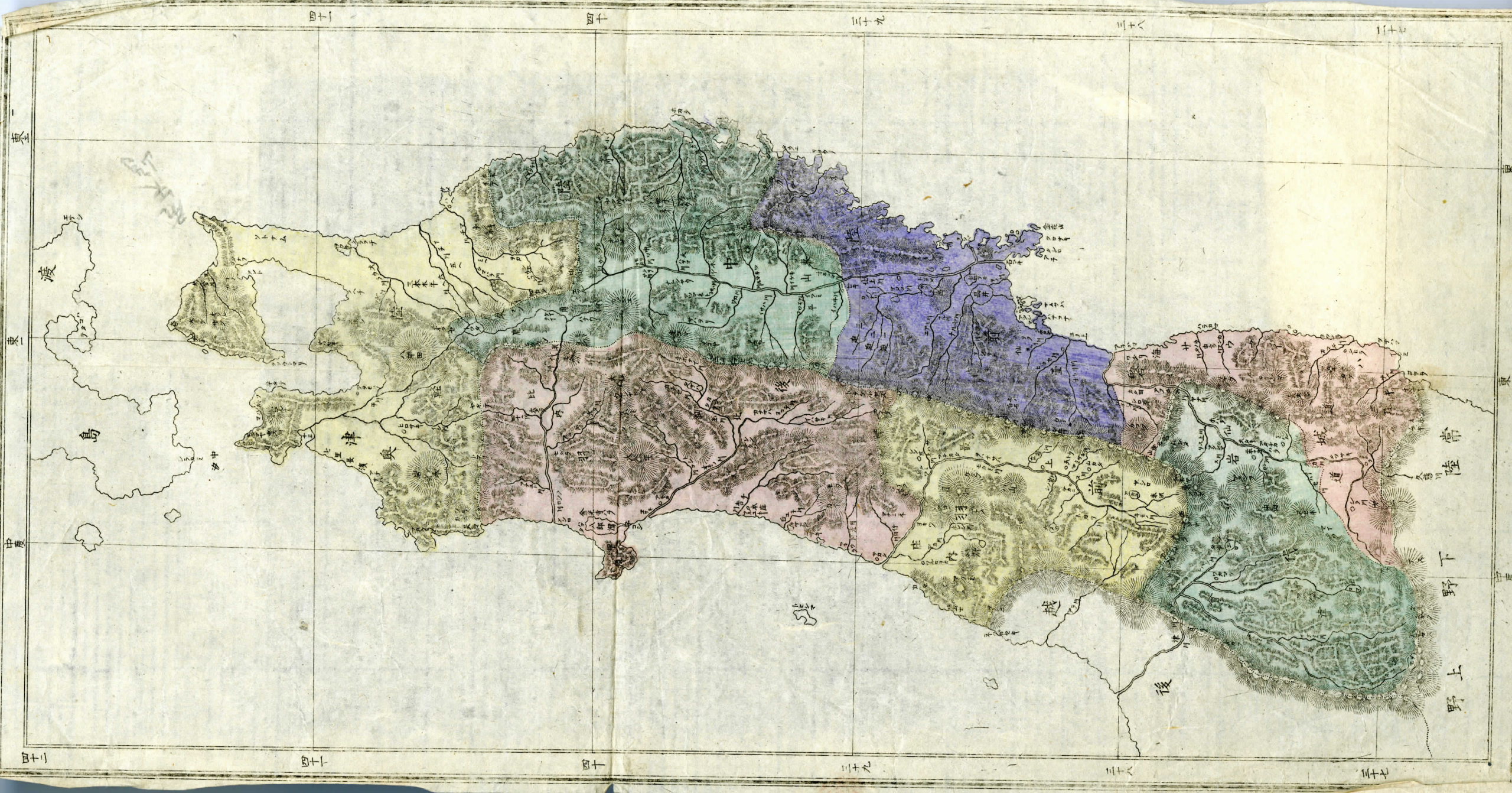
多川ヲ良品ト稱ス、野洲川ノ鮠魚モ世ノ賞美スル處タリ、信樂ノ茶ハ、宇治ト并稱ス、又陶器ヲ製造シテ、古來名品ノ稱アリ、政所土山モ、亦多ク茶ヲ産ス、其他、高宮生平ハ、幡蚊屋、沖島疊表、高島硯、伊吹艾、大津算盤、水口細工等、共ニ有用ノ佳品タリ、而テ長濱ノ縮緬、其家善美ナル者、世ニ濱縮緬ト呼ブ、羽二重、大鷲絨モ、此地ノ良品タリ、美濃ハ、米紙ノ外、其品盛大ナラズ、岐阜絹、曾代糸、實ニ其中ノ良タリ、金生山ノ更紗、蠟石ハ、燈籠水盤ノ大香合、印籠ノ細各種ノ製造アリ、關ノ良劍ヲ鍛冶

スルハ世ノ普ク知ル所ニシテ、真桑、蜂屋、枳養
老酒、土岐焼酎、大根等、其名亦高シ、長柄川ノ鮎其
大、尺ニ過グ、下流ハ、合渡ノ鱒、洲股ノ鯉、共ニ美味
タリ、飛騨ノ材木、獸皮、其有益ナル者ナリ、金、及、銅
鉛、其利用アル者ナリ、硫黄、炭酸礬石ハ其良巖ナ
ル者ナリ、蠟、漆、茶、紙モ亦其必用ナル者ナリ、高山
一位細工ハ即、位山産スル所、而テ養蠶ノ業ハ、白
川郷ヲ最盛ナル者トナス、諏訪平、飯田、梔、松本、絞
上田、縞、仁科、冰餅等、信濃ノ名産ナリ、上田、松代、地
方ハ、養蠶ニ盛ニシテ、生糸中ノ最上品ヲ産ス、種

紙、真綿ノ製、白七子、白紬ノ織物等アリ、其蕎麥ノ
美ナルハ諸方ノ共ニ賞味スル所ナリ、石腦油、石
綿等、近來發見スル者多シ、木曾山中ハ、飛騨ニ接
シ、獸皮、材木ヲ出ス、最、檜材ニ富ム、乾栗、串柿、干瓢
岩茸等ハ、即、山國ノ産ニシテ、各湖諸川ノ産スル、
鯉、鮒、鮎、鱒ハ又、海ナキ國ノ生鮮タリ、兩野ハ地勢
其趣ヲ異ニシ、平野遠ク開クレド、山間ハ、温泉多
クシテ、硫黄、明礬ヲ出ス、足尾ノ銅、草津ノ石炭、沼
田、那須ハ、多ク烟草ヲ植ウ、日光ノ蠟石、人參、及、漆
器、蕃椒、悉、山谷ノ産物タリ、那須ノ大方紙、荒野ノ

佳品ニテ、野州麻ト稱スル者ハ、椽木近方ヲ良ト
ス、足利ノ木綿、伊勢崎ノ太織、縞共ニ良産ナレド、
真岡木綿ノ精美ヲ極ムルニ及バズ、而テ、桐生ノ
織物實ニ、威大ニレテ武蔵ノハ王子、五日市ト相
對スレド、縮緬綾錦、殊縹精好ノ諸品、獨此地ヲ推
ス、故ニ平野ノ間ハ、桑田相望ミ、村々蠶桑ノ業ニ
就カザル者ナレ、富岡ノ製糸場、實ニ壯大ナルヲ
極ム、其上州織ノ名、殆全國ニ冠タルハ、事真ニ虚
シカラザルナリ、

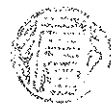
奥羽全圖



奥羽

明治元年十二月、詔シテ曰、奥羽兩國ハ、曠漠僻遠ノ地ニシテ、古ヨリ、教化、洽ク敷キ及シ難シ、今陸奥ヲ磐城岩代、陸前陸中陸奥ノ五國ニ出羽ヲ羽前羽後ノ二國ニ分國シ、厚ク風俗移易、人民撫育ノ道ヲ盡サントスト、蓋其地ハ、東西ニ海ヲ受ケ、北端ハ、兩岬並出テ、一ノ内海ヲ抱キテ、北海道ト海峡ヲ夾ム、中央ハ大山脈相列リ、最北ヨリ起リ、直ニ南ニ亘リテ、陸羽ノ分界ヲ為シ、西ニ折レ、越後ノ境ニ傍トテ、又南ニ赴キ、再西ニ亘リテ、北陸

中山、兩道ノ間ニ入ル、即全國ノ脊梁ニシテ、高山
大岳、相並ヒ、其形、馬鬣ノ如クニシテ、地勢ヲ左右
ニ別チタリ、且、悉火山ノ脈ニ當リ、其麓ニハ溫泉
多ク出ツ、時ニ或ハ山火ヲ噴キ、灰石ヲ飛スノ害
アリト云フ、磐城、陸前、陸中ノ三國ハ、東海ニ向フ、
即太平洋ニシテ、其海岸二百二十里、中央ニ牡鹿
ノ岬突出シテ、其端ヲ金花山トナス、羽前、羽後ハ、
西ニ臨ミテ、日本海ノ東ヲ限ル、其沿海ノ里程ハ、
東岸ノ半ニ及フ、男鹿島ハ、其中間ニ出ツル一出
島ニシテ、寒風山、峙チタリ、陸奥ハ、兩地ノ端ニ當



リ、三面海ヲ受ケテ、地勢、兩斷ス、磐城ハ、海岸ニ沿
ヒテ、常陸ニ界シ、岩代ハ、山脈ニ包レテ、上野、下野
ニ接ス、共ニ關東ノ西北ヲ限レリ、○抑、此地ハ、上
世ヨリ、蝦夷ノ巢窟ニシテ、三陸ノ地ニ居ル者ヲ
奥蝦夷ト云ヒ、兩羽ノ間ニ在ル者ヲ、越蝦夷ト呼
フ、而テ二若ノ地ハ、早ク王化ニ屬ス、蓋景行帝ノ
時、御諸別王、東山道都督トナリ、蝦夷ノ亂ヲ討ス、
酋帥等恐レ、悉其地ヲ獻ス、成務帝、其地ニ就キテ、
國造ヲ定ム、中世ニ至リテ、石城、石背ノ二國ヲ置
ク、即其地ナリ、元明帝、大ニ軍ヲ興シテ、奥越ノ二

夷ヲ征シ、始テ出羽國ヲ建ツ、是ヨリ其後征討ノ
事トスルヲ、大率、虚歲ナク、桓武帝征夷ノ武略ヲ
奮ヒ、田村麻呂ヲ用ヰテ、誅伐多年、悉是ヲ海島ニ
逐ヒ、境土ヲ開キテ、海ノ盡頭ニ至ル迄凡一百年、
其間、夷地ヲ得レハ、城ヲ築キ、柵ヲ造リ、兵ヲ置キ
テ、以テ是ニ備フ、其全ク服従スルニ及ヒテ一郡
トナス、然レモ、或ハ叛キテ、夷地トナリ、又服レテ、
郡ヲ建ツ國司ハ、專其貢賦ヲ司リ將軍常ニ屯レ
テ、其叛亂ヲ鎮壓ス、故ニ國ヲ置キテ以テ、其郡ヲ
統フルヲ能ハス、遂ニ此絶大ノ一國ヲナス、延喜

ノ時ニ、陸ニ三十六郡アリ、羽ハ十二郡タリ、而テ
今ノ陸奥ノ地ハ、糠部、津輕ノ二部タリ、其後、安倍
賴時父子、俘囚ヲ以テ、陸奥ノ衣川、厨川、鳥海等ノ
諸城ニ據リ、南ハ白河關ヲ界トシ、北ハ率土濱ニ
至リ、郡郷ヲ横領ス、源賴義討伐數年、遂ニ誅滅ニ
就ク、是ヲ前九年ノ役ト云フ、此役ヤ、出羽ノ夷因
清原武則戰功アリ、仍テ大ニ郷土ヲ古ム、其後子
姪相攻メ、武衡家衡、共ニ出羽ノ金澤城ニ據ル、賴
義子義家、邦人藤原清衡等ヲ率ヰテ、是ヲ平ク、後
三年ノ役是ナリ、既ニレテ、清衡家ヲ興シ、安倍清

原二氏ノ舊規ニ依リ、平泉ニ居テ、兩國ヲ兼并スルヲ、四世九十餘年、泰衡ニ至リ、源賴朝追討シテ、是ヲ亡シ、其地ヲ以テ、葛西、葦名、伊達ノ數氏ニ分チ與フ、世呼シテ、奥州征伐ト云フ、足利氏ノ時、更ニ大崎氏、斯波氏、最上氏ヲ封ス、其後興亡相繼キ、地大ニ、兵強キ者六七氏以テ近時ニ至ル、故ニ土地ノ稱呼ハ、其所領ノ主氏ニ因リテ、各地方ノ唱アリ、仙道七郡、庄内三郡ノ如キハ、其地ノ形勢ニ依リ、會津、岩城、最上、秋田ハ、其郡名ヲ以テス、南部、相馬ハ、祖先ノ舊地名ヲリ、葛西七郡、大崎五郡ハ、

其姓ニ用テ、而テ仙臺、米澤ハ、其城地ノ名ニ就キ、其領スル處ノ總稱トス、

岩代ハ、九郡ニシテ、會津、耶摩、大沼、河沼、岩瀬、安積、安達、信夫、伊達ト云フ、

養老二年、陸奥ノ白河、石背、會津、安積、信夫ノ五郡ヲ割キテ、石背國ヲ置ク、天平十三年、廢シテ陸奥ニ并ス、明治元年、其地ヲ以テ、再、此國ヲ建ツ、而テ白河ヲ磐城ニ屬セリ、○會津分レテ、耶摩、大沼、河沼ノ四郡トナル、安達ハ安積ヨリ分レ、伊達ハ信夫ノ令郡ニシテ、岩瀬ハ即石背ナリ、其白河、石川

ト相連リテ、仙道ト云フ、仙道ハ山道ナリ、
會津ハ、尚、四郡ノ總稱タリ、其四面ハ、悉、深山重嶺
ニシテ、内地モ、亦、平地少シ、北ハ羽前ニ、西ハ越後
ニ圍マレ、東ハ一帯ノ連山、仙道ノ分界ニ亘レリ、
吾妻山ハ、東西兩山アリ、大山脈ノ陸羽ノ分界ヨ
リ、西ニ折ル、者、此山其角ニ當レリ、其陰ヲ羽前
ノ米澤トナス、檜原等赤崩山等、相並ヒテ、羽、越ノ
間ニ接ス、飯豊山、特ニ高峻ニシテ、重山ノ上ニ秀
ツ、其峯ハ、大山脈ノ、再南ニ赴ク處ノ隅ニシテ、是
ヨリハ、峯疊屏立シテ、東北ノ兩道ヲ限ル、御神樂

岳、鬼面山等、其中ニ峙チタリ、山間ノ坂路、七國
通スル者、六十里越、八十里越ト云フ、而テ鳥居峠
ヲ、正路トナス、津川ヲ經テ、新潟ニ達ス可シ、其仙
道ト、相往來スル路、中山峠、勢至堂峠アレヒ、他三
面ニ比スレハ、稍重峻ナラス、南方ハ、重山十餘里、
山間ノ街市ヲ、田島ト云フ、其南ニ鶴沼アリ、總テ
山谷ノ間ハ、銀、銅、鐵ノ諸礦山アリ、且、多ク蠟、漆樹
ヲ植エテ、製造甚盛ナリ、其南隅ナル甲子山、朝日
山ハ、那須岳ト、腹背ヲナス、下野ニ出ツル處ハ、高
原、鹽原兩山ノ陰ヲ、藤原越ト云フ、直ニ日光ニ達

ス上野ノ境ニ尾瀬沼アリ其水流レ出テ越後ノ境ニ沿ヒテ北ニ下ル只見川ト云フ溪谷ノ間ヲ屈曲シテ西ニ環リ鶴沼日橋ノ両川ニ會シ揚川ト云ヒ津川ヲ過キテ末ハ北海ニ入ル是ヲ阿賀川トナス○若松ハ東方ノ一大要地タリ元黒川ト稱シ輩名氏世々ノ居城ナリレガ天正中伊達氏ノ為ニ亡サル豊臣氏更ニ蒲生氏郷ヲ封シテ東北ヲ鎮制シ更ニ城郭ヲ大ニシ始テ若松ト號ス後上杉氏ニ賜フ其亂ヲ為スニ及ヒテ徳川氏是ヲ米澤ニ遷シ後數氏ノ變遷アリ最後松平正

之ヲ封シ蒲生氏ノ舊規ニ依ラシムト云フ○若松ノ近地ハ稍平坦ニシテ東山天寧寺ノ温泉ハ繁華ナル處タリ大鹽ニ鹽井アリテ陸鹽ヲ製ス城北ニ湖水アリ東西四里其幅是ニ半ス下流ハ即日橋川ナリ湖北岸ニ猪苗代城アリ故ニ湖モ亦其名ヲ同クス磐梯山其上ニ峙チ其形富士ニ似タリ古會津山ト唱ハシモノ是ナリ安達太郎山ハ二本松岳ト云フ吾妻山ノ南ニ聳エ高峻相次ク共ニ火山ニシテ山中ニ温泉アリ兵湯ト呼ブ布引山其脈ヲ承ケテ中山勢至堂兩

峠ノ間ニ立チテ、甲子、朝日ノ諸山ニ連ル、山陰ハ、
即會津ニシテ、山陽ヲ仙道トナス、逢隈川、南ヨリ
来リ、其中間ヲ貫キ、東北ニ流レ、岩城ト相夾ミテ、
境界相交ル、岩瀬川ハ、須賀川ヲ過キテ、東ニ流ル、
其他、名女川、高倉川等アリ、皆源ヲ西山ニ發シ、悉
逢隈ニ入ル、其間、鏡沼、安積山等ノ古蹟アレ、只
名ノミ存ス、而テ安達原ハ、河東ノ廣野タリ、二本
松ハ、畠山氏ノ居城ニシテ、須賀川ハ二階堂氏ノ
舊城地ナリ、共ニ白川、石川ノ諸氏ト、仙道ノ武族
ナリ、常ニ伊達氏ト敵國トナリ、悉其滅亡スル所

トナル

逢隈川ハ、阿武隈ト呼フ源ヲ、朝日山ニ發シ、東ニ
下ル、白川ヲ過キ、北ニ轉シ、其流殆テ大ナリ、然レ
氏、河中ニ岩石多クシテ、舟楫ヲ通セズ、須賀川ノ
東ニ、龍崎ノ瀧アリ、河底ノ巨岩、陷リテ、兩段トナ
リ、川流、懸リテ注キ落チ、瀑布ノ狀ヲナス、其高、丈
餘、極テ奇觀タリ、下流ハ十里計、僅ニ小舟ヲ通ス
レ、氏再大瀧ニ至リテ、絶ユ、亦河中ノ岩石、相列ル
處ナリ、稍、下リテ、福島ニ至リ、水流、殆テ平ニ、東ニ
赴キテ、岩城ニ入ル、運輸ノ便、殆テ海口ニ達スル

ヲ得タリ、

伊達信夫ハ、逢隈川ニ跨リテ、土地頗平坦ナリ、村里悉養蠶ヲ業トシ、桑田相連リ、河岸ノ地最盛ナリ、福島ハ、郡中ノ一都會ニシテ、街市頗繁盛ナリ、古大佛城ト稱シ、常ニ戰要ニ當レリ、其他梁川、保原、川股、桑折ノ街市アリ、其蠶種生糸ノ出ツルヲ以テ、各繁華ヲナス、○半田、銀山ハ、西ニ峙チ、其銀鑛ノ起、已ニ三百年ニ及フ、北ニ小坂峠アリ、南ニ板谷峠アリ、共ニ羽前ノ米澤最上ニ往來スルノ坂路ニシテ、吾妻山、板谷ノ上ニ聳エ、中腹ニ温泉

アリ、土湯ト云フ、水流是ヨリ流レ出テ福島ニ流レ注ク者ヲ、須川ト云フ、銀山ノ陰ニ、飯坂湯村ノ温泉アリ、智上川ノ上流ヲ夾ム、此地ハ、浴客常ニ多シテ、樓舎頗盛ナリ、下流或ハ瀨ト川トモ云フ、東北ニ、篤借山アリ、磐城ノ刈田ニ接ス、奥州経代ノ時、錦戸國衛ノ柵ヲ構ヘテ、東軍ヲ要撃セシ、處ニシテ、今伊達ノ大木戸ト呼ビ、溝塹ノ跡猶存セリ、○靈山ハ、銀山ト相對シテ、正東ニ峙ツ、建武中興ノ日、北畠顯家ノ城ヲ築キテ、奥羽ヲ鎮守トシ、處ナリ、其山頗峻絶ニシテ、磐城ヲ限ル山脈

中ノ最大ナル者ナリ、

磐城ハ、白川、白河、石川、田村、菊多、磐城、磐前、檜葉、
標葉、行方、宇多、亘理、伊具、刈田ノ十四郡アリ、
此國モ、石背ト同シク、石城國ヲ建ラリシ時ハ、磐
城、標葉、行方、宇多、亘理ノ五郡ニシテ、更ニ常陸ノ
多賀郷ヲ割キ、菊多郡ト名ケテ、是ニ屬ス、後二十
三年ニシテ、廢セラレ、復、一千一百二十八年ヲ經
テ、舊ニ復シ、更ニ白河郡ヲ屬シ、別ニ東北端ニ於
テ、刈田、伊具ノ二郡ヲ加フ、東ハ大洋ニ向フ、沿岸
ノ地ハ、即、古ノ石城國ニシテ、仙道ニ對シテ、海道

ノ稱アリ、文治中、源賴朝ノ藤原泰衡ヲ伐シ、將
士ヲシテ、兩道ヨリ兵ヲ進メ、逢隈ノ湊ニ會セシ
ム、即、逢隈川ノ海口ニシテ、今、荒濱ト云フ、是、國
ノ東隅トナス、是ヨリ南ニ亘リテ、常陸ノ平瀧ニ
至ル四十里、西ハ一帶ノ連山、兩道ノ間ヲ限ル者、
脈ヲ常陸ノ境ニ起シ、御在所、三大明神、矢大臣、大
瀧根ノ諸山相連リ、移岳、虎捕山、靈山等、其北ニ續
キ、漸小ニシテ、地藏峯、旗卷峠、東光山トナリ、亘理
伊具ノ界ヲ限リ、逢隈ノ岸ニ至リテ盡ク、其山ト
海トノ間ハ、廣處十里ニ及ビ、狹處四五里ニ過キ

ス、是ヲ大別シテ、南ヲ磐城ト總稱シ、北ヲ相馬
呼フ、

磐城分レ、テ磐前、摘葉ノ三郡トナリ、菊多郡ヲ并
セテ、磐城四郡ト云フ、平城ハ、岩城氏、世々ノ居城
ナリ、故ニ街市、猶小都會ヲナス、城外ニ長橋アリ、
昔藤原清衡ノ女岩城氏ニ嫁スル者、老後、德尼
ト云フ、實ニ此橋ヲ創造ス、故ニ尼子橋ト呼フ、其
製、平田ノ上ニ架ク、蓋洪水ノ為ニ豫設クル者ト
ス、○南ニ泉城アリ、兩城ノ近地ハ、頗平坦ニシテ、
其間ニ温泉アリ、湯本ト云フ、古ク三箱^{サハ}御湯^{ミユ}ト呼

フ者是ナリト云フ、湯岳、赤井岳相並ヒ、テ其西ニ
峙ツ、赤井ハ、毎夜、燐火アリ、土人、是ヲ龍燈ト云フ、
其後ハ、御在所、野大臣ノ諸山ニ接ス、山間多ク石
炭ヲ出ス、鎌田川、鮫川、源ヲ山中ニ發シ、各東流シ
テ海ニ入ル、海濱ハ、鹽尾崎出テ、中作、小名濱ノ
二港ヲナス、サレト、灣小ニシテ、大船ヲ着クルコ
能ハス、崎ノ北濱ヲ、四倉ト云フ、魚鹽ノ利ハ、近郡
ニ冠タリ、是ヨリ北ノ海岸ハ、或ハ絶壁數丈、或ハ
岩礁亂立、其間、沙路、坂路、高低相連リテ、遠ク相馬
領ニ亘レリ、

相馬ハ郡郷ノ名ニ非ス、相馬氏世々、標葉行方、字多ノ三郡ヲ領ス、故ニ此地ノ總稱タリ、今ノ城市ヲ中村ト云フ、頗、繁盛ニシテ、原金ノ湊ヲ距ル僅ニ一里、故ニ運漕ノ便アリ、鵜尾崎湊ヲ擁シテ、灣ヲナセトモ、亦小ニシテ、碇泊ノ便ニ乏シ、郡中ハ田野開ケ、道路整ヒタリ、原町ニ牧場アリ、野馬數百匹ヲ畜フ、然レモ妙見ノ神使ト稱シテ、是ヲ用井ガリシト云フ、此地ハ、東海西山ノ間、甚近クシテ、川流大ナラス、宇多川、鹿島川等アレト、共ニ細流ナルノミ、

白河ハ岩代ト接シテ、仙道中ノ一郡タル、永祿大正ノ間、蒙族ノ土地ヲ占メ、城郭ヲ構ヘシ者ハ、谷其所領ヲ以テ、私ニ建テ、一郡トナス、白川、石川ハ、即本郡ヲ分チタル者ニシテ、田村ハ、安積郡ノ逢隈河東ノ地ナリ、今皆公ノ一郡トナル、白川城ハ、白河郡ニシテ、下野ニ接シ、棚倉城ハ、白川郡ニシテ、常陸ニ接ス、兩國ノ境ニ、八溝山、高ク聳エタリ、白川ノ諸水ハ、悉集リテ、南ニ流ル、是ヲ久慈川ノ上流トナス、其他三郡ハ、逢隈川ニ沿ヒ、衆水悉注キ入ル、大率、細流ナルノミ、○白河關ハ、勿、永關

ト、共ニ昔時、關門ヲ建テ、海山兩道ノ要口ヲ扼
セシ處ナリ、兩地共ニ其趾ヲ存ス、白河ハ地勢其
險ナラス、而テ勿來ノ地タルヤ、八溝ノ山脈、東ニ
走リテ、大向山トナリ、直ニ東洋ノ岸ニ至リテ盡
ク關ヲ其處ニ築キシカ、古道既ニ廢絶シテ、今ハ
山腹ヲ穿テ鑿リテ、僅ニ一路ヲ通ス、尚、要害ノ地
タリ、關下ハ、菊田濱、九面濱等相連リテ平潟ニ接
ス。

石川氏ハ石川郷ニ據リ、田村氏ハ、田村莊ヲ領ス。
白川、結城氏、及ニ階堂島山ノ諸氏ト共シ、伊達氏

ニ敵シテ、或ハ亡ビ、或ハ降ル、獨、田村氏、其舅氏ヲ
以テ、三春城ニ據リ、常ニ應援ヲナス、守山ニ大元
帥ノ祠アリ、蓋、田村將軍ヲ奉祀スル處ナラン、
刈田、伊貝ハ、國ト地勢相屬セズ、岩代、陸前ノ間ニ
夾マル、此ハ羽前ニ接ス、全郡山多ク、北境殊ニ重
峻ナリ、刈田岳、又白石岳ト呼フ、高峻ニシテ、陸羽
ノ界ニ跨ル、古、不忘山ト唱ヘシ者はナリト云ハ
其最高キ峯ヲ、截王岳トナス、亦噴火山ニシテ、麓
ニ温泉多ク、遠刈田、鎌崎、小原等アリ、白石川ハ、源
ヲ羽前ノ境ニ發シ、岳ノ南麓ニ沿ヒ、東ニ下ル

岸ニ就キテ、村里アリ、即、岩代ノ小坂峠ヨリ、羽前
ニ往来スル官道ニシテ、峽間數里、是ヲ山中七宿
ト云フ、川流ハ轉シニ、北ニ赴キ、白石ノ街市ヲ繞
リ、末ハ逢隈川ニ入ル、○逢隈川ハ、長流六十里、其
川路タルヤ、仙道ノ中央ヲ貫キ、常ニ東北ニ赴キ
流レテ、海山兩道ノ山脈盡クル處ニ至リ、直ニ東
ニ折レテ海ニ入ル、其岩城ヨリ来リテ伊貝ノ中
間ニ入ルヤ、兩岸聳エ逼リテ、河幅咸ニ狭シ、是ヲ
猿跳ト云フ、水勢急激ニシテ、是ヨリ上流ハ、大船
ヲ通スルヲ能ハス、丸森ヲ過キ角田ニ至リ、山、絶

ミ、地平カニシテ、川流モ亦從モテ、穩ナリ、陸前ノ
境ニ沿ヒテ、荒濱ニ注ク

陸前ハ十四郡、紫田、名取、宮城、黒川、加美、玉造、志
田、遠田、栗原、登米、牡鹿、桃生、本吉、氣仙ト云フ、
牡鹿郡連山、相列リテ、海中ニ出ヅルヲ十餘里、一
ノ大岬ヲナシテ、海勢ヲ兩分ス、是ヲ遠島ト呼フ、
東面ニ二島アリ、田代、網地ト云フ、北陰ニハ、江島
出島ノ兩島、並列シテ、岬ノ端ヲ黒崎トナス、金花
山、大洋中ニ屹立シ、我國中土ノ東極タリ、其山ハ
岬端ヲ離ル、半里計、山鳥渡ト云フ、金山、悉巨岩

地誌卷之四 卷之二
疊石ニシテ、且、砂礫ニ至ル迄皆金色ヲ帶ヒタリ、
其大洋ニ向フ處ハ、削壁危柱相列リ、大箱小箱、及
千疊敷、水晶岩等ノ奇觀アリ、此山ヨリ北ノ海
岸ハ、岩石連リタル荒磯ナレド、海水深クシテ、舟
泊ニ宜シキ處多シ、氣仙沼寂盛ナリ、青森崎其北
ヲ限リ、大島港口ニ横リ、舟舶常集リテ、小都會ヲ
ナス、此沿海ノ地ハ、即、本吉、氣仙ノ兩郡ニシテ、室
根山ノ脈其脊ニ連リ、陸中ノ東山ト境界ヲ分ツ、
郡中山多ク、氣仙ハ、今泉、盛等ノ街市アリ、五葉山、
高ク聳エテ北境ヲ限ル、海岸ハ、綾里崎、唐丹濱等

相連レリ、本吉ハ蠶桑ノ業殊ニ盛ニシテ、入谷志
津川ノ村邑、寂良品ヲ出ス、
金華山ヨリ東南ハ、海水遠ク連リ、渺茫トシテ、其
涯ヲ見ズ、凡、東洋ヲ航行スル者ハ、房州沖ヨリ北
ハ、此山ノ外、目標トスル者ナレト云ハリ、山頂遙
ニ岩城ノ鵜尾崎ト對シテ、其沿岸一ノ大灣ナリ
ス、灣ノ中央ヲ松島トナス、此地ハ、日本三景ノ第
一ニシテ、宮戸、寒風澤、石濱ノ諸大島、其前面ヲ擁
ミ、南ハ與崎ヲ限トシ、其端ヲ花洲ト云フ、北ハ害
名ノ長洲突出テ、其内、南北五里、東西三里、一ノ内

海ヲナス、群島一百、大小並列リ、陸ニ近キ處ハ、御島、籬島、福浦島等、寂著名タリ、凡、島嶼ノ上、悉、松樹ニシテ、翠色、烟波ト相映レ、妝點ノ美ナル、實ニ魚鱗ノ勝景タリ、西北隅ニ富山アリ、全景ヲ一望スヘシ、其他ハ宮戸ノ大高森、與、崎ノ毘沙門山等モ、亦、眺望ニ佳ナリ、千賀浦ハ、西北ノ隅ニシテ、其地、鹽釜洞アリ、洞下ノ街市ハ、洞ニ因リテ、其名ヲ同クス、此地ハ仙臺ノ城市ヲ距ル五里、運輸ノ出入、常ニ茲ニ集ル、故ニ繁盛ナル一小都會タリ。○鹽釜ノ南ニ、多賀城地アリ、神龜元年、詔テ此城ヲ築

キテ、蝦夷ノ境ヲ壓ス、鎮守將軍常ニ來リテ、奥羽ヲ鎮シ、戍兵ヲ置キ、軍糧ヲ儲フ、號シテ鎮所ト云フ、其後、天平寶字六年更ニ修造シテ、門碑ヲ建ツ、千餘年ノ久、今猶現存ス、其文ニ曰、去京一千五百里、蝦夷國界一百廿里ト、今程ノ二百五十里、及、二十里ニ當レリ、即知ル、是ヨリ前ニ桃生、及、玉造、柵ヲ造ル者、恰、夷境ニ接セリ、田村麻呂ノ瞻澤城ヲ築クニ及ヒテ、鎮所ヲ移シ、弘仁中、遂ニ其城ヲ以テ、鎮守府ト定メ、此地、遂ニ廢絶ニ就ナシトシ、仙臺ハ一巨城市ニシテ、人口五萬、東方ノ一大都

會ナリ、元、伊達氏ノ居城ニシテ、樓壁ノ設、青葉山ニ據リ、廣瀬川ヲ帶ト、頗險要ナリ、伊達氏ノ會津仙道ヲ攻取スルヤ、豐太閤其專擅ヲ責メ、侵地ヲ收メテ僅ニ舊領ナル氷澤ヲ存ス、既ニシテ遷封ナルニ葛西大崎ノ地ヲ以シ居城ヲ岩手山ニ建ルシガ後、此地ニ移リ治ム、故ニ其繁華ナルヲ名古屋、金澤ニ次ク城西ノ地ハ、連山、相重リ、奥羽ノ分界ニ接ス、太白森磐山、根白石岳等相峙チ北ハ七森ニ連リ山間ニ作並、秋保ノ温泉アリ、東南ヲ青根ト云フ、其地ハ刈田岳ノ北麓ニ當リリ。○城

南ハ平野遠ク連ル十餘里直ニ海濱ニ至ル即、古ノ宮城野ニシテ、今猶古蹟ヲ存ス、萩花鈴虫、只名ノミナラズ海岸ハ平沙行松、相連リ、南ハ逢隈ノ河口ヨリ、北ハ花淵崎ニ至ル、沿海九里其間蒲生關上ノ諸濱アリ、名取川ハ源ヲ太白森、鑄岳、笹谷峠等ノ數處ニ發シ、廣瀬川ト相合ヒテ關上ニ注ク、更ニ七北田川アリ、下流ヲ冠川ト云フ、宮城野ノ北ヲ過キテ、蒲生濱ニ落ツ、共ニ細流ニシテ、舟楫ノ利ニ乏シ、

志田遠田ハ、國ノ中央ニシテ平田數十里間絶エ

テ岡阜ヲ見ズ、北ハ栗原佐沼ニ亘リ、東ハ北上川ニ跨リテ桃生登米ニ連リタリ、土俗平田ノ廣大ナル處ヲ廣稻ト唱フ、此地ハ北朝廷文中大崎家兼奥羽探題トナリテ、領セシ處ナレバ、今尚大崎廣稻ト呼ス、湖沼十數其間ニアリ品井沼最大ナリ、周回十里其他廣淵沼、下郡沼、燕栗沼、伊豆沼、及名緒中田ノ諸沼アリ共ニ、周回ニ四里ヨリ七八里ニ及ス、諸沼ノ間ハ地大率卑濕ニシテ只草茅ヲ生スルノミ、俗ニ呼ビテ谷地ト云フ、鳴瀨川ハ加美郡ノ水ヲ集メテ中新田三本木及松山ヲ過

キ、品井沼ノ下流ト合ヒテ、小野川トナリ、唐名ノ東ニ至リテ海ニ入ル、玉造川ハ源ニ、鳴子川渡ノ温泉アリ、下流ヲ江合川ト云フ、岩手山、古川ヲ過キ、涌谷ニ至リ、北上川ニ入ル、佐沼川ハ、迫川ノ下流ニシテ、伊豆中田ノ諸沼ヲ集メ南ニ轉シテ、燕栗沼ニ入ル、再東出シテ、亦北上川ニ入ル、此三川ハ、謂ユル廣稻ノ間ヲ流ル、者ニシテ、小舟常ニ上下ス、昔聖武帝ノ時、陸奥、銘テ黄金ヲ貢スト、其趾ハ、涌谷ノ北ナル篋岳ニシテ、平野中ノ孤山ヲリ、其傍猶黄金迫ノ名アリ、○北上川ハ陸中ヨリ

米、室根山ノ脈連ル處ニ就キテ、南ニ流レ、山絶
エテ谷地相連ル、諸沼ノ間ヲ横流シ、和淵ニ至リ、
東ニ轉シテ、廣淵沼ノ下流ヲ弁セ、鹿股ニテ、分レ
テ兩川トナリ、東流スル者ハ、本吉ノ追波ニ至リ
海ニ入ル本流ハ南ニ赴キテ、石巻ノ港ニ注ク、即
古ノ伊寺水門ニシテ、河口ヲ夾ミ、街市相對ス、此
地ハ東洋中ノ一大港ニシテ、頗繁盛ヲ極ムト雖
比、河口、水淺クレテ、大船巨艦ヲ泊スル能ハス、然
氏、東岸ニ牧山アリ、西岸ニ日和山アリテ、自海門
ヲサス、源賴朝ノ興羽ヲ平沼スルヤ、葛西清重ヲ

總奉行トナシ、日和山ニ居ラシム、後、登米ニ移ル
故ニ其領スル處、亦葛西七郡ノ稱アリ、牧山ノ東
ニ、渡波ノ入江アリ、是ヨリ東ヲ遶島ノ地トス、
栗原郡、分レテ一迫、二迫、三迫トナリ、而テ栗原ト
稱スル地ハ、佐沼ト共ニ、此郡ニ屬シテ、地勢ハ遠
田、登米ニ連リ、而テ金成、廣稻ト稱スル地ハ東北
ノ平田ニシテ、陸中ノ西磐井ニ亘リタリ、迫トハ、
峡谷ノ謂ニシテ、其地、山多ク、其間ノ溪流、相集リ
テ、迫川トナル、駒岳高ク聳エテ、陸中、羽後ニ跨ル
郡名ヲ冠リ云、栗駒山ト云フ、即大山脈中ノ、最大

ウル者ニシテ、是ヨリ南ニ連ル群山ハ、大城山、翁岳、銷岳、仙、今岳等モ、共ニ大ニシテ、刈田岳ニ接ス、其間ニ清水峠、笹谷峠、及輕井澤中山等ノ險坂アレ、奥羽ノ間ニ往来スル者、必是ニ由ルト云フ、陸中ハ、岩井、膳澤、江刺、和賀、稗貫、志和、岩手、鹿角、閉伊、九戸ノ十郡ナリ、

此國ハ、閉伊、九戸ヲ除キテハ、四面海ナク、且鹿角ハ、大山脈ノ西陰ニ在リテ、地勢相隔絶ス、而テ七郡ノ地ハ、山脈東西ヲ環リ圍ミ、北上川、其中間ヲ貫キテ、南ニ流レ、陸前ニ入ル、○岩鷲山、高ク聳エ

形似フ以テ、南部富士ト云フ、南部ハ奥地ノ名ニ非ズ、南部氏、甲斐ヨリ来リ、近傍ノ諸郡、及、糠部、津輕ノ地ヲ領ス、故ニ大南部、小南部、外南部ノ稱アリ、南昌山モ、亦一高山ニシテ、岩鷲ノ正南ニ峙テ、東根、葛丸ノ諸山、相連リ、別々一ノ山脈ヲ起シテ、其陰ヲ雪石、澤内ノ二邑トナス、連山相重リテ、其西ニ亘リ、圍ム者ハ、大山脈ノ南ニ赴ク者ニシテ、御駒岳、馬蛇岳、碓駒岳、及、經塚、旗矛ノ諸山、高峻相競ヒ、岩鷲ノ背ヨリ起リ、酢川岳ニ接ス、酢川ハ、即栗駒岳ニシテ、是ヲ陸前ノ境トナス、○御姫岳ハ

玉東山トモ云フ、岩鷲山ト對峙シテ、東ヲ圍ム運
山ノ脈ヲ起ス、其背ヲ藪川山トナス、早池峯雞頭
山ノ諸高山ト相連リ、九戸、閑伊ノ背ニ並ヒ、六角
牛山、室根山等、一帯南ニ赴キ陸前ノ氣仙、本吉ノ
西境ヲ限リ、登米、桃生ノ間ニ至リテ盡ク、○正北
ハ陸奥ニ接シ、其界ヲ中山ト云フ、即東西ノ山脈
左右ヨリ相接スル處ニシテ、是ヨリ北ハ、水流悉
北ニ流レ、以南ハ、皆北上川ニ入りテ南ニ流ル、中
古夷境ヲ限ル者ハ、實ニ天然ノ經界ナリ、
北上川ハ、岩鷲山ノ北ナル、弓削泉ヲ水源トナス、

南流スル！僅ニ六七里ニシテ、盛岡ニ至ル、舟橋
アリ、越中ノ富山、越前ノ福井ト三舟橋ノ名アリ
シガ、近來板橋ニ改造シテ、行路ノ便ヲ謀ル、橋下
既ニ舟運ノ利アリ、凡七郡ノ水、數十川、注キ入り
テ益其大ヲ致シ、常ニ南ニ赴キテ、陸前ニ入ル、抑
我國ニ於テ、大河ト稱スル者ハ、中土ニアリテ、利
根、木曾、千曲ノ三川ヲ推ス、サレド、利根ハ舟楫ニ
便ナレバ、水程、其源ニ及ハズ、千曲ハ、其流長シト
雖モ、處々、障礙アリ、木曾ハ、溪谷ノ大ナル者ニシ
テ、下流ニ至リ、僅ニ通船ヲ得ルノミ、獨此川ハ源

ヨリ河口ニ至ル七十里、沿岸ノ地、大率平坦ニレ
テ、河中岩礁ノ害ナク、舟運ハ遥ニ其源ニ溯リ、兩
國ノ米穀、數百萬石、其運輸是ニ由ラザルナレ、實
ニ無雙ノ大河ト云フ可シ。○七郡ノ水、其著ル
者ハ、丹藤川ハ、藪川山ヨリ出テ、西下ス、源泉ヲ
去ル遠カラバ、河流、此水ヲ得テ、勢始テ其大ヲナ
ス、雫石川ハ、御駒岳ノ山脈ヨリ發シ、東ニ下リ、厨
川ノ城墟ヲ繞ル、中津川ハ、東ヨリ來リ、咸岡ノ市
間ヲ流ル、咸岡ハ、南部氏ノ居城ナリ、元、不來方城
ト呼ヒ、一方ノ都會ニシテ、仙臺以北ノ城市ナリ、

厨川ハ、北上川ヲ夾ミテ相對ス、天喜中、安倍貞任
ノ據リテ、官軍ニ抗セシ處ニシテ、其地、西北ニ大
澤アリテ、他ノ二面ハ、河ヲ阻ツト稱ス、今猶然リ、
賴義ノ是ヲ攻ムルヤ、火攻ヲ用中テ、遂ニ誅滅ス
ルヲ得タリト云フ、志和郡ニ、斯波氏ノ故城アリ、
伊澤郡ニ鎮守府ノ舊趾アリ、和賀川ハ、澤内ノ
水ヲ集メ、膳澤川ハ、源ス下嵐江ニ發シ、各郡ノ諸
溪ヲ并セテ、共ニ西ヨリ來リ注ク、其東ヨリ會ス
ル諸水ハ、横田川、次丸川、倉沼川等、共ニ早池峯、六
角牛山ノ山脈間ヨリ出ツル者トス、江刺ニ黒石

寺アリ、田村將軍ノ建立スル所ニシテ、亦有名ノ古寺ナリ、衣川ハ、簀川岳ノ陰ニ出テ、高館ノ下ニ至リテ、櫻川ニ入ル、櫻川ハ、即北上川ノ別名ナリ、衣川以北ハ、昔時奥六郡ト稱シ、安倍賴時其酋長トナリ、數世海陸ヲ劫服シテ、貢賦ヲ致サス衣川ノ險ニ據リ、關ヲ設ケ厨河島海ノ二柵ヲ構ヘテ、勢甚彊大ナリ、賴義國守ヲ以テ、是ヲ討ス、攻伐六年、賴時遂ニ島海ニ敗死ス、其子貞任、再衣關ニ據リ、官軍屢敗ル後、又六年、賴義、其ヲ出羽ノ豪族清原武則ニ召シ、奮戰シテ、是ヲ破リ、遂ニ衣川、島海

ノ兩柵ヲ拔ク貞任、退キテ厨河ヲ保ツト云フ、岩井川ハ、酢川岳ノ陽ヨリ發シ、岩壁相逼リテ五、串ノ瀑布トナル、頗奇觀ナリ、此川ノ地方ハ、西岩井ト稱シ南岸ニ一關、二關、三關ノ村里アリ、昔藤原清衡ハ、居所ヲ平泉ニ構ヘシヤ關ヲ置キテ守禦ヲ設ケシ處ナリ、平泉ハ、高館ト相接シ、清衡基衡秀衡ノ三世茲ニ居リ、奥羽兩國ヲ領シ、其勢王室ニ僭擬シ、伽羅樂御所、柳御所等ノ名アリ、毛越中尊ノ二大寺ヲ建立ス、其趾猶存ス、中尊ハ、經藏光堂、尚榮華ノ舊構ヲ存ス、光堂ハ、金箔ヲ以テ悉塗

ル故ニ金色堂ト呼フ、其内ニ三世ノ棺ヲ藏ム、源義經ノ罪ヲ見賴朝ニ得テ再逃レテ秀衡ニ依ルヤ高館ニ居ラシメテ以テ奉饗ス、今猶判官館ト唱ス、其地北上川ニ臨ミ、川ヲ隔テ、東稻山ト相對ス、昔時、全山櫻樹ヲ植ク、仍テ櫻川ノ稱アリ秀衡歿後其子泰衡家ヲ繼ケル義經ヲ庇翼スル能ハズ而テ身モ亦誅セラレテ、國遂ニ滅亡ニ就キタリ、○東山ハ、岩井郡ノ北上河東ニアル地ヲ總稱スル者ニシテ曾慶川、興玉川、共ニ室根山ヨリ出テ、曾慶川ハ、鳥海ノ柵堀ヲ繞ル月館川ト合

ヒテ西南ニ流レ、興玉川ハ千麿ヲ過ギテ西ニ赴ク千麿ハ秀衡ノ軍馬ヲ飼ヒシ處ニテ、其礎石現存ス其地、猶馬韁ヲ織出シテ名産トナス

靈龜元年蝦夷ノ請ニ依リテ、郡家ヲ閉村ニ建ツ即今ノ閉伊郡ニシテ其地ハ陸前ノ氣仙ノ北ニ並ビ九戸ト共ニ早地峯、藪川山、名久井岳等ノ連山ヲ負ヒ前ニハ大洋ヲ受ケ沿海四十餘里種市山岸上ニ峙チテ陸奥ノ境ヲ限ル海岸ハ岩礁多キ荒磯ナレバ内地ノ山高キ故ニ海水深クシテ舟泊ノ處多シ金石山、田大槌ノ三港ハ南隅ニ

アリテ、互ニ相接ス。小本川、叢川山ヨリ來リ、宮古久慈兩港ノ中間ニ落ッ。宮古ハ、帆懸崎出テ、一彎ヲナシ、鍬崎ト街市相連リ。津輕石川、宮古川共ニ西ヨリ來リテ、灣内ニ注キ入ル。久慈ハ相隔ッルヲ十餘里、其地九戸ニ屬ス。レ氏、閉伊口川流レ入レバ、古ハ是ヨリ南ヲ閉伊ノ本郡トナスヲ以テ、而テ糠部ハ、夷境ニ附セル、屬地ナルヘシ。鹿角ハ、大山脈ノ間ナル平地ニシテ、來萬山、十和田山等ノ高山、東ニ相列リテ、陸奥ニ界シ。南ハ岩鷲山ノ背ニ當リ、道路相通ゼズ、地勢ハ羽後ノ比

内ト相接シ、日暮土高場立、菱ノ諸山相限レ。氏水流悉集リテ、米代川トナリ、西ニ流ル。河源ヲ十和田湖トナス、元慶二年、出羽ノ夷倭叛シ、上遠野及各地ニ據リタリ。即此地ニシテ、後、奥地ニ屬セリ。郡中ハ、礦山アリ、温泉アリ、花輪毛馬内ノ諸邑相望シ。平坦數里、自山間ノ沃野ヲナス。陸奥ハ四郡ニシテ、二戸、三戸、北郡、及津輕トナス。

東山道ノ北端ニ居リ、我國中土ノ頭頂タリ、三面海ニ臨ミ、南ハ陸中、羽後ニ接ス。東ハ大洋ニ向ヒ

西ハ日本海ニ臨ミ、正北ハ海峽ヲ隔テ、北海道ノ渡島ト相對ス、中間ニ大ナル内海アリ、海水北ヨリ來リ、東ハ入ル二十餘里、其沿岸五十里計、南岸ニ青森野邊地ノ兩港アリ、烏帽子岳高ク岸上ニ聳エテ、其間ヲ限ル、故ニ南部津輕兩地ノ通路ハ、海岸一條ノ細路ノミ、是ヲ馬門ト云フ、二戸三戸北郡ハ陸中ノ九戸ト共ニ古ノ糠部ノ地ニシテ、元、閉伊ニ屬シ、中世ニ至リテ、猶夷境タリ、其地、南ハ中山ヲ境界トシ、次第ニ區別シテ、北ニ赴キ、一戸ヨリ、七戸ニ至ル、而テ八戸、九戸ハ東

海ニ沿ヒテ南ニ亘リ、閉伊ノ本郡ニ接ス、〇一戸ヨリ、三戸迄ノ地ハ、陸中ノ間ニ夾リ、西ハ七時雨山、四角岳、來禰山、戸來岳ノ諸岳相列リ、鹿角ト境ヲ限リ、其脈北ニ赴キ、十和田山、奥瀬岳、甲田山等連續シテ、烏帽子岳ニ至リテ盡ク、折爪、名久井ノ諸山ハ、中山ノ東ニ連ル、蓋御姫岳ノ脈ヲ承ケテ北ニ亘ル者ニシテ、九戸ト腹背ヲ分ツ、二戸ハ南部氏ノ舊居タリ、其始祖糠部津輕ノ地ヲ領セルヤ、城郭ヲ茲ニ構フ、天正中、其族九戸政實叛シテ、福岡ニ據ル、豐太閤將兵ニ命シテ、纔ニ是ヲ討平ス

ト云フ、凡、此間ノ水流ハ北ニ流レ、白鳥嶺ノ諸
川、悉、福國ニ集リ、漸、大川トナリ、七時雨山ヨリ來
ル淨法寺川ト合ヒテ、三戸ニ至リ、又、來、嵩山ニ發
スル熊原川ヲ并セ、轉ジテ東ニ下ル其流、廿五里、
是ヲ馬淵川ト云フ、八戸ノ湊ニ注ク、此湊ハ、南部
支封ノ地ニシテ、小南部ノ稱アリ、東洋ノ岸ニ於
テ、宸北ノ海港トナス、故ニ頗、繁華ノ地タリ、○五
戸七戸ノ間ハ、山田解ケテ、東洋ヲ一望ス可シ、其
間、曠原荒蕪スルヲ四方十餘里ニ亘ル、是ヲ三水
木平ト云フ、六戸川ハ、相坂川トモ云フ、源ヲ十和

田沼ニ發シ、荒野ノ中央ヲ東下シテ海口ニ至リ
戸來岳ヨリ出テ、五戸ヲ流レ來ル市川ト共ニ
海ニ入ル、○十和田沼ハ、山間ノ湖水ニシテ、周囲
數里、其高山ノ腹ニ在ルヲ以テ、水清ク、地幽ナリ、
湖口、四出ス、西流スル者ハ、米代川トナリ、北出ス
ル者ハ、岩木川ニ入ル、而テ東ニ下ル諸川ハ、共ニ
東洋ニ注ク、奥瀨川、大浦川、共ニ七戸ノ南ヲ流レ、
坪川、石文川ト合ヒ、海濱ニ至リ、溜リテ、倉内、尾駱
ノ二大沼ヲナス、妙海妹海ト云フ、周圍、各、十里計
海潮、互ニ通ス、○野邊地ハ、七月ノ北五里餘ニ在

リ、北海ニ運漕スル舟船、常ニ出入シテ、一都會ノ地タリ、是ヨリ東北ハ、即外南部ノ地ニシテ、一帯ノ陸路、地峽ヲナレ、相連ル十里計、内海ト東洋トノ間ニ亘レリ、北端ヲ尻矢崎ト云フ、渡島ノ惠山崎ト對シ、又、遙ニ日高ノ襟裳崎ト相望ム、暗礁、海中ニ亘ルヲ三里、舟行ノ難乎トス、其東洋ニ向フ處モ、八戸ノ岬ニ至ル二十餘里、海上ニ岩礁並峙チ、風浪常ニ險惡ナリ、地峽ノ幅ハ三四里、大半空山、荒野ニシテ、村里、樹木少ク、其端西ニ折レテ、大ナル出島ヲ為ス、沿岸二十里、舟泊ノ處多シ、北出

ノ岬ヲ大間崎ト云フ、箱館港ト相向ノ、海程七里計、西ニ奥戸、佐井ノ二港アリ、東ニ大畑港アリ、中央ハ、悉噴火山ニシテ、山火常ニ燃エ、硫氣充満シテ、草木生ヒズ、其高キ者ヲ恐山ト云フ、大畑川、生津川、共ニ山中ヨリ出テ、北流シテ外洋ニ入ル、内海ノ岸ニ、釜伏山、高ク聳ユ、山中多ク檜材ヲ出ス、東麓ヲ、田名部トナス、安渡ノ港ト相接シテ、島中ノ一都會タリ、西端ヲ、九艘泊ト云フ、津輕ノ平館ト、内海ノ口ヲ夾ム、其間六里ヲ隔ツト云フ、津輕ハ、西羽ノ北端ニ屬シ、山岳重疊シテ、其東西

甲田隣境ト相接スル處ハ、矢立岬僅ニ陸路ヲ
羽後々比内ニ通ス、其麓ヲ碓關ト云フ、温泉アリ、
朝懸高倉ノ諸岳、其西ニ列リテ、正南ヲ限ル、泊岳、
寂大ナリ、東境ハ、十和田奥瀬ノ山脈相連リテ、膳
棚、蛭飼、諸山アリ、甲田山ハ、八峯並列シテ殊ニ
峻秀ナリ、故ニ八甲田山、又八甲山ト云フ、其脈盡
クル處ヲ、馬門ノ險路トナス、西ノ海濱モ、亦自神
岳、男岳、女岳等、泊岳ノ陰ニ接シ、沿岸良、大間越ノ
一鐵路アルノミ、其他ハ、三面海ニ臨ミ、沿岸七十
里北出ノ岬ヲ、龍飛崎ト云フ、渡島ノ白神崎ト、相

對シテ、海峡ヲ夾ム、其間四里計、海流激シテ、三條
ノ入河ヲナシ、潮流ノ急ナルヲ我國ニアリテハ、
第一ノ險タリ、阿波ノ鳴戸長門ノ早鞆ハ、是ニ次
グ、蓋日本海ノ水、太平洋ト互ニ流レ通スル處ニ
シテ、其水路ハ兩岬ノ下、及中央ニ在リ、舟人、是ヲ
三汐ト唱ヘテ、舟行ノ甚戒ム處トナス、岬ノ東ヲ
三馬屋ト云フ、松前ニ渡ル地ニシテ、停泊ノ便アリ
此地ハ、九郎義經ノ平泉ヲ逃シテ、蝦夷地ヘ渡
リシ處ニテ、其時鞍馬三ヲ留ム、故ニ此名アリシ
ト云、此邊ノ海濱ハ、謂ユル外濱ニシテ、舍利、今別

ノ諸濱ハ砂石、悉珠玉ノ如シ、是ヲ合浦ト稱ス、其
背ハ、增川、岳品、岳等相重リ、東端ヲ平館トナス、即
内海ノ門口タリ、○内地ハ、平坦ニシテ、田野開ケ、
岩木、山西南ニ峙チ、獨立高峻、呼ビテ津輕富士ト
云フ、岩木川ハ、源ヲ泊岳ニ發シ、岩木山ノ溪谷ヲ
并セ、北流シテ、弘前ノ城市ヲ環ル、天正中、津輕爲
信ノ據リテ、本郡ヲ專領セシ處ニシテ、郡中ノ一
都會タリ、平川、淺瀨川、石川等、其ニ東境ノ連岳ヨ
リ來リ、悉合流シテ、一大河トナリ、平野ノ間ヲ横
流シテ、十三編ニ入ル、其流二十餘里ニ及ブ、○十

三瀉ハ、ノ湖水ニシテ、南北三里、東西三里、湖口、
港ヲナシテ、舟舶常ニ集レリ、其地、西北ノ海濱ニ
臨ミ、是ヨリ南ニ沿ヒテ、鰺澤ニ至ル、平砂、相列リ
テ、村里ナシ、七里長濱ト云フ、鰺澤モ、亦碇泊ニ便
ナル處ニシテ、其南ニ、又深浦ノ港アリ、海岸、漸峻
峻ナレバ、頗好風景ノ地タリ、海上ハ、岩石、並列シ
テ、大間越ニ亘レリ、以上三港、更ニ青森ヲ并セテ、
津輕ノ四港ト稱ス、○青森ハ、内海ノ西南隅ニ在
リ、平館ヲ距ル、沿岸十里、弘前ヲ隔ツ、陸路十餘里、
港ノ東ニ、夏泊岬出チ、更ニ一灣ヲナス、其地、樹

木蒼翠トシテ、舟人見テ目標トナス、故ニ此名アリ、箱館へ水程三十里、諸國ノ船舶常ニ集ル者數百人、烟ノ盛ナル一、石巻、酒田ト、三方ニ對立シテ、奥羽中ノ三大港タリ、

羽前ハ四郡ニシテ、置賜、村山、最上、田川ト云フ、和銅元年、越後國ニ出羽郡ヲ置ク、今ノ庄内ノ地是ナリ、同五年、建テ、國トナシ、陸奥ノ最上、置賜ノ二郡ヲ屬ス、明治元年、奥羽ヲ分ツ時、羽前國ヲ置ク、即此三郡ノ地ナリ、其地、東ハ陸前、磐城ニ接シ、南ハ岩代、越後ニ包マレ、北ハ羽後ニ界ス、國境

ハ、何レモ深山重岳ニシテ、西僅ニ日本海ニ臨ミ、月山國ノ中央ニ聳エテ、地勢ヲ限リ、今ツ平野其間ニ連リテ、復米澤、最上、庄内、三地ヲ爲セリ、最上川ハ、兩羽中ノ大河ナリ、上流ヲ松川ト云フ、吾妻岳ニ發シ、西下シテ米澤ヲ過キ、鬼面川、羽黒川、吉野川、野川等ヲ并セ、北ニ赴キテ、最上川トナリ、左澤ヲ過キ、東ニ轉シテ、寒河江ニ至リ、須川馬見崎川相會シテ、平野ノ間ヲ北流ス、立岩川ハ、東ヨリ來リ、白岩川ハ、西ヨリ入り、益其大ヲ致シ、尾花澤ヲ過キ、船形川、北ヨリ來リ、往キ、仍テ折レテ、

而轉ス、此間ハ月山ノ脈ニ當リ、連山重合シテ
平地ノ流れ行ク可キナシ、故ニ板敷山ノ麓ヲ穿
テ貫ク兩岸壁立數十丈瀑布、其深ニ懸リ、頗奇觀
タリ、水勢最急激ナレバ、山路ノ殊ニ險シキヲ以
テ、清水ヨリ清川迄、峽間七里往来共ニ舟ニ依ル
即富士川及肥後ノ球摩川ト三急流ノ稱アル所
ナリ、清川以下、兩岸圍解ク、庄内ノ中央ヲ斷テ、竹
田川、赤川ヲ并ヒ亦七里ニシテ、酒田港ニ至リ、海
ニ入ル、故ニ酒田川ト呼ブ、此川源ヨリ海口迄、凡
六千里ノ遠キニ及ベバ、舟楫ノ利ハ、僅ニ其三合

ノ一ニ過ギバト云フ、
庄内ハ、中古三郡ノ稱アリシガ、出羽郡廢シテ、田
川ニ合シ、飽海郡ハ羽後ニ屬ス、最上川、兩郡ノ間
ヲ流レテ、仍テ國界ヲナス、尚、兩地ニ亘リテ、庄内
ト呼ブ、○月山、高ク秀デハ、正東ニ聳エ、湯殿、羽黒
ノ兩山、其腰ニ峙チ、北ハ板敷山ニ接シ、南ハ朝日
岳ニ連リ、最上ト腹背ヲ分ツ、朝日岳ハ、越後ニ跨
リ、其脈、西ニ赴キ、尾國嶺トナリ、險阪數里、是ヲ兩
國ノ境トナス、○鳥海山ハ、奥羽中ノ大岳ニシテ、
登降九里ニ及ブ、其山獨立峻秀ニシテ、他山ノ邊

リ覆フ者ナシ、山麓西ニ赴キ、海岸ニ至リテ斷ツ、
是ヲ三崎嶺トナス、山路險惡ニシテ、僅ニ往来ヲ
通ズ、有耶無耶關ト呼ブ、庄内ノ北境タリ、南境ハ、
鼠關ト云ヒ、即尾國嶺ノ麓ニ當レリ、兩關ノ間、海
岸二十里計、酒田川ノ海口ヨリ、南ハ、加茂湊及三
瀬温海ノ諸邑相連リ、海中ニ岩礁並峙チ、岸上モ
山多クシテ、道路險峻ナリ、温海岳高ク聳ユ、其麓
ニ温泉アリ、湯温海ト云フ、而テ加茂以北ハ、遠ク
亘リタル砂山ニシテ、酒田ノ北ヲ吹浦ト云フ、沿
岸十里、海風常ニ砂礫ヲ吹キ、行路甚艱メリ、一島

其海上ニ孤立スル者ヲ、飛島トナス、○内地ハ、頗
平坦ニシテ、金峯山、東南ニ聳エ、大梵宇川ハ、湯殿
山ヨリ出テ、大鳥川ヲ合セ、鶴岡ノ城市ヲ繞リ、北
ニ流ル、是ヲ赤川トナス、抑此地ハ、大寶寺氏ノ領
地ニシテ、天正中、其主、光安、苛政ヲ施ス、國人、稱シ
テ惡屋形ト呼ベリ、後、家上氏ノ為ニ滅サル既ニ
シテ、上杉氏、越後ヨリ來リ、攻メテ是ヲ取ル、鶴岡、
常ニ其城地トナリ、街市ノ繁盛、今ニ大都會ヲナ
ス、酒田港ト、相距ル六里、赤川ニ舟運ノ便アリテ、
常ニ往来ス、酒田ハ、北運ノ舟舶集リ泊シテ、京畿

ノ運輸ニ便ナリ、其人烟ノ繁華ナルヲハ、新潟以
北ノ一大良港ナリ、
最上郡、分レテ村上郡トナル、實ニ仁和二年ナリ、
延文元年、源兼賴、北朝ノ命ヲ受ケテ、出羽按察使
ニ任ズ、仍テ、最上氏ヲ稱シ、十世ノ孫義光、遂ニ此
一郡ノ地ヲ專領ス、故ニ猶總稱シテ、最上ト云フ、
東ハ、翁岳、笹谷山等相連リテ、藏王岳ニ接ス、西ハ、
月山ノ脈列リ、葉山、其前ニ聳ユ、中央ハ、最上川ノ
東西ニ亘リ、其間、四五里、南北凡十五里計、地勢ノ
平坦ナルヲ、兩羽中ニ冠タリ、北境ハ、山多クシテ

八向、水像ノ諸山相連リ、羽後ノ境ヲ、及位峠トナ
ス、又杉峠ト云フ、新庄ハ、山間ノ城市ナリ、猿列川、
西ニ流レテ、最上川ニ入ル、是ヲ船形川トナシ、此
地方ハ、即、最上氏ノ舊地ニシテ、後、山形ニ移リ、居
リ、○山形城ハ、義光、築ク處ニシテ、城郭ノ設頗壯
大ナリ、上山、天童ノ二城、其左右ニ列リ、須川馬見
崎川、共ニ藏王岳ヨリ出デ、三城ノ間ヲ流レテ、
西ニ下ル、上山ニ温泉アリ、遊人、常ニ來リ浴ス、其
他、山寺ノ石橋、大沼ノ浮島等モ亦有名ノ勝地ナ
リ、

米澤ハ、即置賜ノ一郡ヲ呼ブ者ニシテ、伊達、上杉
ノ兩氏、相繼キテ、城地ヲ構ヘ、長ク此地ヲ治ム、故
ニ此稱アリ、○吾妻岳、兩峯、高ク聳エテ、岩代ノ界
ニ立チ、東大巔、岳大巔ト呼ブ、山腹ニ硯湯アリ、麓
ニ滑川、五色等ノ温泉アリ、燕瀧、高ニ十丈、是ノ松
川ノ源トナス、岳ノ東ヲ板谷峠トナシ、西ヲ檜原
峠トナス、共ニ大山脈ノ中間ニ當リ、檜原尤險ナ
リ、會津、米澤ノ間ハ、僅ニ此一路アルノミ、北方ノ
最上ニ接スル處ハ、漸平カニシテ、西境ハ、重山、更
ニ深シ、而テ中間ハ、平地十里計、土人、能ク生産ヲ

勤メ、蠶桑ノ業、極テ盛ナリ、城北ノ温泉アリ、赤湯ト
云フ、浴客常ニ賑フ、其傍ニ沼アリ、白龍湖ト呼ブ、
吉野川ノ源タリ、沼ノ東ハ、屋代郷トテ、自一郷ヲ
ナス、羽黒川ハ、板谷峠ノ北ヨリ出ヅ、大樽、小樽ノ
兩川ハ、檜原ノ脈ニ發シ、相合ヒテ、鬼面川ト云フ、
野川ハ、朝日岳ヨリ來リ、其流、十里ノ遠キニ及ブ、
○朝日岳ハ、庄内、寂上ノ三地ニ亘リテ、飯豊山ト
相對シテ、共ニ越後ニ跨ル、國境ヲ、大里峠ト云フ、
兩山ノ間、別ニ一郷ヲナシ、黒澤、榎木等ノ坂路アリ、
其間ノ平地ヲ、小國ト云フ、玉川、横川、相集リテ、

西ニ下ル、越後ノ荒川是ナリ、凡、國中ノ川谷、別ニ一河ヲ為シテ、最上川ニ入テザル者ハ、惟此川ナル、

羽後ハ、秋田、山本、河邊、仙北、雄勝、平鹿、由利、飽海八郡ナリ、

阿部比羅夫、舟師ヲ率テ越國ヨリ蝦夷ヲ伐テ、飽田、淳代、津輕ノ地ヲ定メ、其郡領ヲ置ク、飽田ハ、即秋田ナリ、淳代ハ、野代ニシテ、今ノ山本郡ノ地、而シ津輕ハ陸奥ニ屬ス、其後七十餘年、出羽柵ヲ秋田ニ徙シ、其多賀柵ヨリ、行路ノ迂遠ナルヲ以

テ、新ニ雄勝ノ直路ヲ開キ、後二十餘年ヲ經テ、雄勝城ヲ造リ、翌年、雄勝、平鹿ノ二郡ヲ置ク、寶龜ノ末、阿部家麻呂奏シテ、秋田城ヲ河邊ニ遷サントヲ請フ、朝議許サズ、且、曰ク、由利柵モ亦秋田ノ道ヲ承ク、共ニ將士ヲシテ、是ヲ鎮セシム可シト、後二十餘年、遂ニ城ヲ廢シテ郡ト為シ、河邊府ニ遷リタレド、既ニシテ、又、秋田ニ復スト云フ、弘仁中、夷俘叛キ、城ヲ燒キ、火内、野代、及、上、遠野等ニ據ル、藤原保則、討シテ是ヲ平ク、是ヨリ、邊境事ナキト、百七十年、清原武衡、俘囚ノ長ヲ以テ、悉、山北ノ地

ヲ領ス、前九年ノ役、源賴義、其兵ニ賴リテ、安倍貞
任ヲ誅滅スルヲ得タリシトゾ、

北ハ、陸奥ノ津輕ニ接シ、西ハ、羽前ノ寂上、庄内ト
相交ル、東ハ、大山脈ヲ分テ、陸中ニ界ス、駒岳ハ
即、御駒岳ニシテ、大深山、駒形山、藥師岳、阿彌陀岳、
時宗山、及、國見、八方ノ諸嶺、其間ニ連リ、馬蛭岳、簀
川岳ト、相並ビテ、大嶽山ニ接ス、小安岳、虎毛岳、其
隅ニ峙チ、鏑岳ハ、羽前ニ跨リ、寂上ノ境ヲ、杉峠ト
ナス、其脈、西ニ亘リテ、鳥海山ニ連ル、○森吉山ハ、
鹿角ノ境ニ聳エ、土高場、日暮ノ諸山、其北ニ列リ、

折レテ西ニ環ル、其隅ヲ矢立峠トナス、森山、泊岳、
池臺山等、屏列シテ直ニ海岸ニ至ル、其盡クル處
ヲ、岩館ト云フ、即、大間越ノ險路ヲ承クル者トス、
○太平山ハ、國ノ中央ニ立タ、岩見山、鶴養山、龍峯
等、其背ニ重リ、大佛山ハ、仙北、比内、兩地ノ界ヲ限
リテ、駒岳、森吉山ノ間ニ連ル、其間ハ、總テ深山幽
谷ニシテ、瀑布十餘、或ハ十五丈、或ハ二十丈、其寂
大ナル者二條、共ニ高五十丈、白糸瀧ハ、北ニ落チ
テ、比内ノ大又川トナリ、大瀧ハ、南ニ流レテ、玉川
ニ入ル、

玉川ハ、小保内川トモ云フ、駒岳、大深山ヨリ發シ、
南ニ流レ、田澤沼ノ下流、及角館川、齋内川ヲ并セ
テ、西ニ下リ、又大佛岳ヨリ來ル、鰍瀬川ト合ヒ、西
南ニ赴キ、御物川ニ入ル。○御物川ハ、最上川ニ次
ク大珂ニシテ、野代川ト、羽州ノ三大川ト稱ス、源
ヲ小安岳ニ發シ、北ニ流レ、岩崎川、横手川ヲ并セ、
神宮寺岳ノ麓ニ至リ、玉川ト相會ス、此兩川ノ流
ル、地方ハ、古ノ山北ノ地ニシテ、今猶總稱シテ、
仙北領ト呼ブ、水流ハ、相合ヒテ、西ニ赴キ、更ニ岩
見山中ノ溪谷、及太平山ノ陰ヨリ出ツル戸島川

ヲ并セ、秋田ヲ過ギテ、新川ト呼ビ、土崎湊ニ注ク
其流、三十餘里ニ及ブト云フ、○野代川ハ、米代ノ
下流ニシテ、陸中ヨリ來リテ、西ニ下ル、比内ノ水
四方ヨリ來リ注ク、其矢立嶺ヨリ來ル者ハ、屈曲
環流シテ、津波十數故ニ、四十八川ノ稱アリ、比内
ハ、即火内ナリ、其地、鹿角、津輕ニ接シ、山間ノ平野
四方七八里計、別ニ一郷ヲナス土人ハ、郡ヲ以テ
自稱スルニ至ル、水流ハ、直下シテ、早、中、綴子ヲ過
ギ、小繫ニ至リ、兩山相合ヒテ、地勢ヲ限ル、七座山
其上ニ聳エ、籠山、岸ヲ夾ミテ相對ス、阿仁川ハ、大

小二川アリ、龍峯ヨリ出テ、大又川ト合ヒ山谷ノ
間ヲ穿チ下リ大錠小錠ノ險崖アリ、七座山下ニ
至リテ合流ス、小繫以下ハ兩山ノ峽ヲ穿ツ、一里
餘、岸上、險路ナルヲ以テ、亦舟ニテ往來ス、峽ヲ出
レバ、平野相連ル、即古ノ碇代ノ地ニシテ、川流其
中央ヲ流レ、藤琴川ヲ并セ、野代湊ニ入ル、仍テ野
代川ト呼ブ、源ヨリ凡廿五里、御物川ト、共ニ舟運
ノ上下スル者ニシテ、米代川ハ、寂其上流ニ及ブ
ト云フ、

西岸ハ、一帯日本海ニ臨ミ、中央ニ、男鹿山アリ、一

條ノ列路、二里餘、北ニ連リテ、一ノ出島ヲ為シ、其
内ハ、八郎潟トナス、島中ハ、寒風山、本山等、相聳ニ
海中ハ、危石巨礁峙チ列ル、龍頭岩、寂奇ニシテ、其
他石門岩洞ノ奇絶アリ、○八郎潟ハ、南北七里、東
西四里ナル大湖水ナリ、北隅ヲ、濱田ト云フ、即洲
路ノ陸地ニ接スル處ニシテ、野代港ト相距ル三
里、其東北ハ、廣原相連ル、十餘里、金光寺原等ノ名
アリ、大率荒廢レテ、開墾ノ業ニ就カズ、湖水南ニ
流レテ船越ニ至リ、川トナリテ海ニ入ル、其湖海
ノ間、其近キヲ以テ暴潮高ク漲ル時ハ、常ニ逆流

スト云フ、

秋田城ハ、久保田ト呼ブ一都會ニシテ、御物川ヲ帶ビ太平山其上ニ聳エ、土崎湊ト相距ル一里計湊ハ頗繁華ナル處ニシテ、船越ト相距ル五里野代ト共ニ酒田以北ノ良港トナス應永中、安東太廣季ナル者、津輕ヨリ、船ヲ航シテ、湊ニ至リ、遂ニ秋田ヲ領シ、五世相傳ヘテ、常陸ニ遷サル、佐竹氏ノ代リテ、此地ニ封セラル、ヤ、由利、飽海ヲ除キ其餘ノ六郡ヲ領ス、其地曠ク、民少クシテ原野往々荒蕪ス然レ氏、隣境ニ接スル地ハ、堡砦ヲ置キ

各小城市ヲ為セリ、大館ハ、天立嶺ヲ距ル五里、比内ノ中央ニアリ、湯澤ハ、杉峠ノ北、四里ニシテ角館ハ、國見嶺ヲ距ル六里、而テ横手ハ、兩地ノ中間ニアリテ、共ニ仙北ニ屬ス、其北ヲ、金澤トナス、即清原家衡武衡ノ據レル所ニテ、古蹟猶存セリ、由利ハ、鳥海山ノ北陰ヲ環リ、飽海郡ト腹背ヲナス、東北ハ、保呂羽、八鹽ノ山脈、相連リテ、仙北ヲ限リ、西ハ海ニ臨ミ、三崎嶺ヨリ、御物川ノ海口ニ至ル一帯ノ沙濱ニシテ、其間二十里計、子吉川ハ、源ヲ、鳥海山ノ東麓ニ發シ、矢島ヲ過ギテ、西ニ流ル、

羽廣川ハ、保呂羽山ヨリ出テ相合フテ、本庄ノ城
市ヲ繞リ、海ニ入ル、河口ヲ古雪湊ト云フ、亦舟泊
ノ地タリ、此他、鳥海山ノ谷間ヨリ出ツル者、安沼
鳥越ノ諸川、相集リテ、白雪川トナリ、直ニ海ニ入
ル、其南溪ニ發スル者ハ、日光、月光ノ兩川、共ニ次
浦ニ注ナリ、

象潟ハ、松島ト東西相對シ、勝景ノ地ト稱ス、其地
三崎嶺ノ麓ニ接シ、海濱ヲ以テ越ト云フ、潟ノ周囲
一里餘中ニ島嶼アリシモ、文化ノ初、地震ノ為メ
ニ崩レテ、平田トナリ、湖口ハ、海潮逆流シテ、徒ニ

其名ヲ存セルノミ、

奥羽ノ産馬ヲ以テ良トナス、其來ル久シ、弘仁六
年陸奥出羽按察使奏ス、軍團ノ要ハ、馬ヨリ先ナ
ルハナシ、然ニ權門富人搜求絶エズ、其馬是ニ由
テ闕乏ス、請フ延暦六年ノ定條ニ依リテ嚴禁セ
ント、其後貞觀三年ノ制ニ、陸奥ノ馬ハ、境ヲ出サ
ハルヲ既ニ久シ、今、法禁漸ク弛ブ、戎馬ノ用ニ
堪ヘル者ハ、牝牡トナク、悉境ヲ出スヲ禁ス、其
駿良ノ産、軍國ノ用ニ供スル者、古既ニ斯ノ如ク、
今猶然リ、三春ノ馬、其最駿ナル者、然レモ物ニ驚

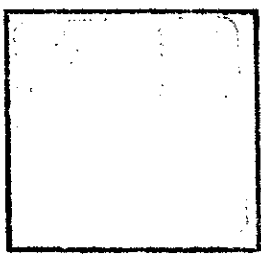
キ易シ、故ニ五戸七戸ノ産ヲ第一トナス、是ヲ五
七ノ馬ト呼ブ、比内ノ産阿仁ト云ヒ、是ニ次ク、南
部ハ、澤内、牽石ヲ良トシ、仙臺ハ、岩崎宮崎、遊鬼首
等ノ産アリ、最上、秋田、是ニ次キ、米澤、會津、是ニ次
キ、庄内、津輕、又、是ニ次ク、東海岸ハ、氣仙、宮古、八戸、
田名部ノ産ハ、驚ト雖凡、猶用ニ供ス可シ、相馬、岩
城ニ至リテハ、殆、馳驅ノ技ニ堪ヘザル者、是ヲ最
下トナス、而テ、牛ハ南部、秋田ヲ名産ト稱ス、其金
鐵諸礦ノ盛ナルモ、亦各地ノ良産タリ、會津、秋田、
最上ノ山中ハ、金、銀、銅、鐵ヲ出シ、仙臺ハ、銀、鉛、津輕

ハ、銀、銅、南部ハ、銅、岩鐵ノ出ス、半田、銀山、細倉、鉛山、
幸生、銅山、其名最聞ユ、硫黃、綠礬ハ、温泉ノ地、必、是
ヲ産ス、石炭ハ、岩城ヲ稱スレド、近來、秋田、山本二
郡ノ地、多ク産出ス、蠶桑ノ業ハ、各地、共ニ盛ナリ、
本吉ノ絲、最、其良タリ、呼ブニ、金華山ヲ以テスル
者、全國中多ク、其比ヲ見ズ、卯紙ハ、逢隈川沿岸ノ
地、盛ニ製造ス、然レド、伊達、信夫ニ於テ、川付三十
六村ト稱スル者ヲ、第一トナス、織物ハ、仙臺、平、南
部、縮緬、庄内、絲織、秋田、畝織、二本、松、紬、白、石、紙、布等
ニシテ、仙臺ハ、更ニ七子、八端ノ諸品ヲ出シ、南部

ハ、近來多ク産セズシテ、秋田、頃年ハ丈縞ヲ擬造
ス而テ織工ノ盛ナルハ、米澤ニ著ク者ナシ、絲織
紬ノ諸品ヨリ、博多織、琉球紬ノ類ニ至ル迄、模擬
ノ品、極テ巧ナリ、且、麻、苧モ此地ノ良品ニシテ、近
江、晒、越後、縮等、悉是ヲ用ヰガルナシ、最上、西岩井
モ、亦、麻、苧ノ出ス、北上川ノ鮭ハ、仙臺子籠ト稱ス
ル者、最美味タリ、南部鮭ハ、小本川、市川ヲ盛ナリ
トナス、而テ、各地ノ川流、是ヲ漁セサルナシ、實ニ
東北ノ一大名品ナリ、材木ハ、山深ク谷幽ナルカ
故ニ、諸材産セサルナキモ、田名部ノ檜材ヲ、第一

トナス、藥草モ、亦數多ナシ、ト、會津ノ人參ヲ推ス、
秋田、蕎麥ノ大ナルハ、自、一ノ名産ニシテ、南部ノ百
合、旱藕、是ニ次ク、南部ハ、又、紅花ヲ産シテ、最上ト
共ニ稱セラル、仙臺ノ大豆、亦、輸出ノ大ナル者、若
城ハ、海漁ヲ盛ニシテ、鯉、節、魚、油、榨、粕等ヲ出ス、煎
海、鼠、干、鰯、干、鮓ハ、三陸ノ海岸、悉是ヲ製ス、金、海、鼠
ハ、金華山ノ産ニシテ、海、栗ハ、水戸部ヲ美味トス、
鑄物ハ、南部ノ鐵瓶、其、最良ナル者ナリ、磁器ハ、會
津、燒ヲ推シ、陶器ハ、相馬、燒ヲ賞ス、津、輕、塗、野、代、塗、
會津、塗、共ニ漆器中ノ美、或ハ盛ナル者ナリ、岩城

紙ハ延紙ト呼ビ羽前ノ酒ハ大山酒ト云フ味噌
埋木細工千織ハ仙臺ノ産ニシテ三春烟草氣仙
籠水澤組亦名ヲ各地ニ專ニス蠟漆ハ米澤會津
山中ノ出ス處最多シ會津蠟燭ハ咸ニ輸出シテ
四方ノ必要トナス其鶴岡ノ花紋ヲ畫ケルハ最
美麗ヲ極メタリ而テ米穀ノ産ハ七國ノ石高ヲ
概算スルニ四百三十萬實ニ全國七分ノ一二當
レリ其土地ノ大ニシテ其産ノ盛ナルヲ知ルハ
キナリ



明治八年
十月十八日
東京府下平民
著者 大槻修二
版主
本所相中町三丁目拾番地

發兌

書林

西京寺町通御池下町
大慈齋橋筋妙法寺町四丁目
仙臺國分町拾九軒
東京馬喰町貳丁目
佐々木總四郎
三水佐助
菅原安兵衛
石川治兵衛